

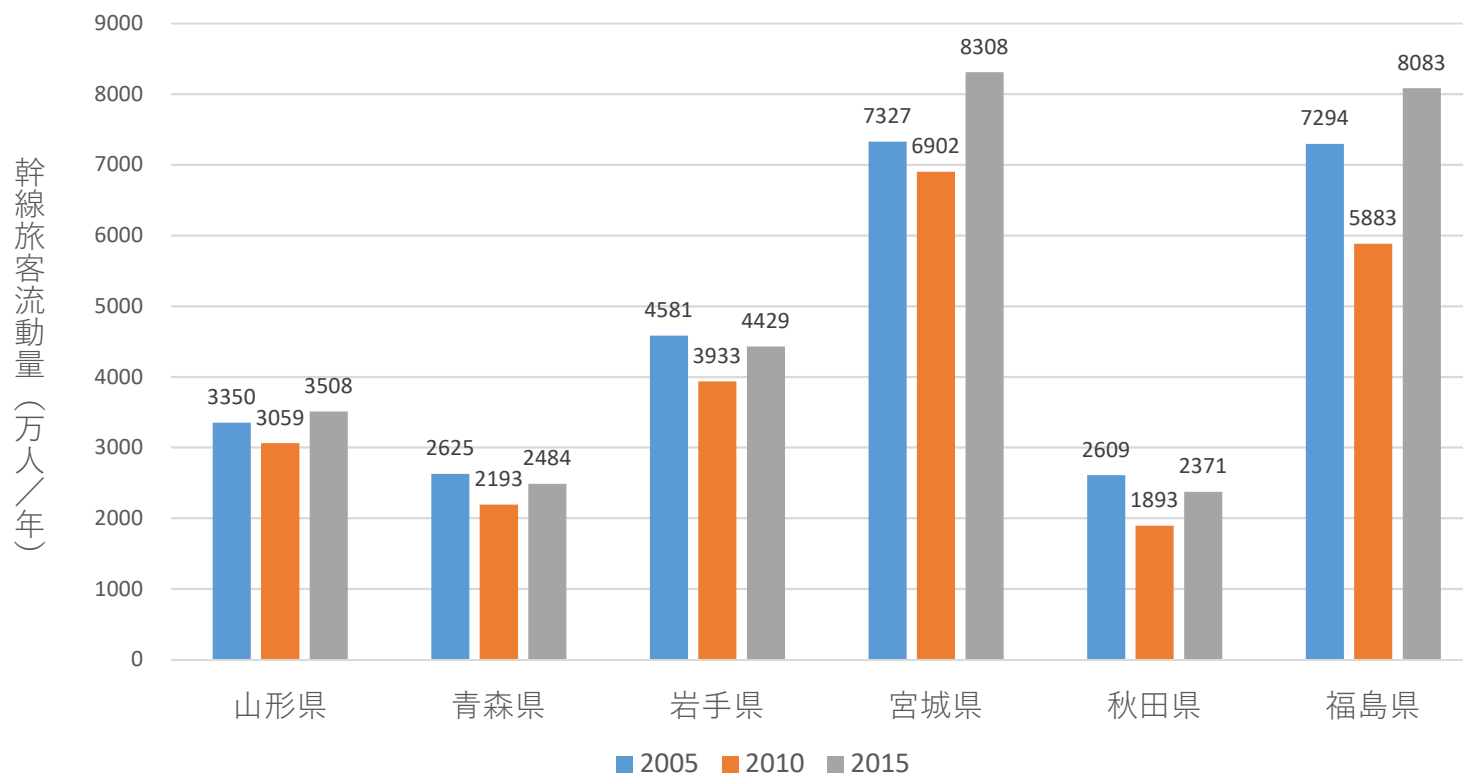
山形県の交通の現状

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(1) 交通流動の状況【国内広域移動】

- 本県を発着する都道府県間の旅客流動※は3,507.6万人（2015年度）であり、10年前に比べて約5%の増加となっている。東北の各県と比較すると、宮城県、福島県、岩手県に次ぐ4番目の規模となっている。

※通勤・通学以外の目的で、航空、新幹線等特急列車あるいは高速バス等幹線交通機関を利用する、都道府県を越える国内旅客流動



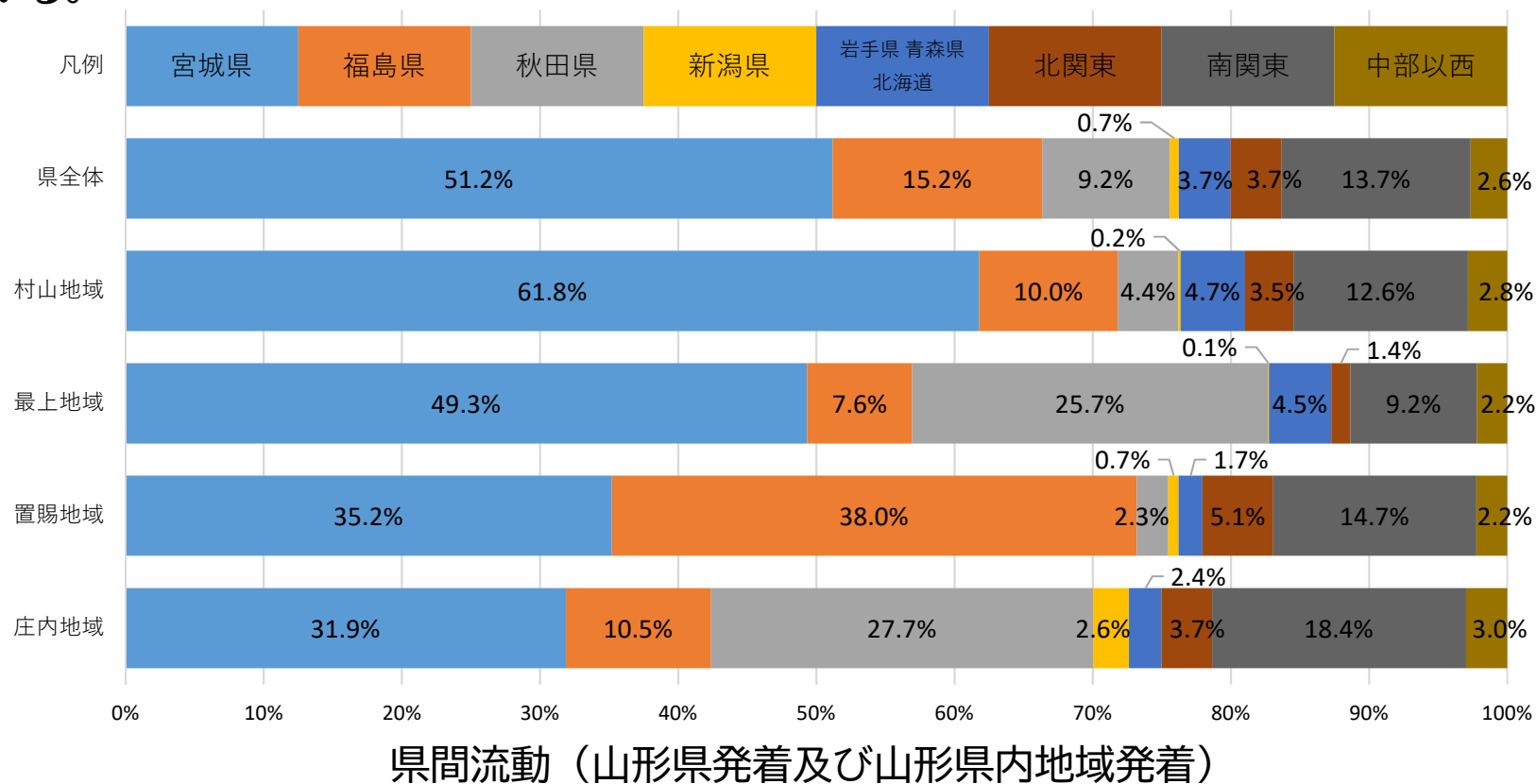
県別流動量

出典：全国幹線旅客純流動調査（国交省）

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(1) 交通流動の状況【国内広域移動】

- 山形県は、宮城県との流動量が最も多く、全流動の5割以上を占めている。次いで、福島県、南関東、秋田県が多い。
- 地域別にみると、村山地域、最上地域は宮城県、置賜地域は福島県、庄内地域は宮城県・秋田県との流動が多い。また、各地域とも南関東との流動も多く、9～18%程度を占めている。



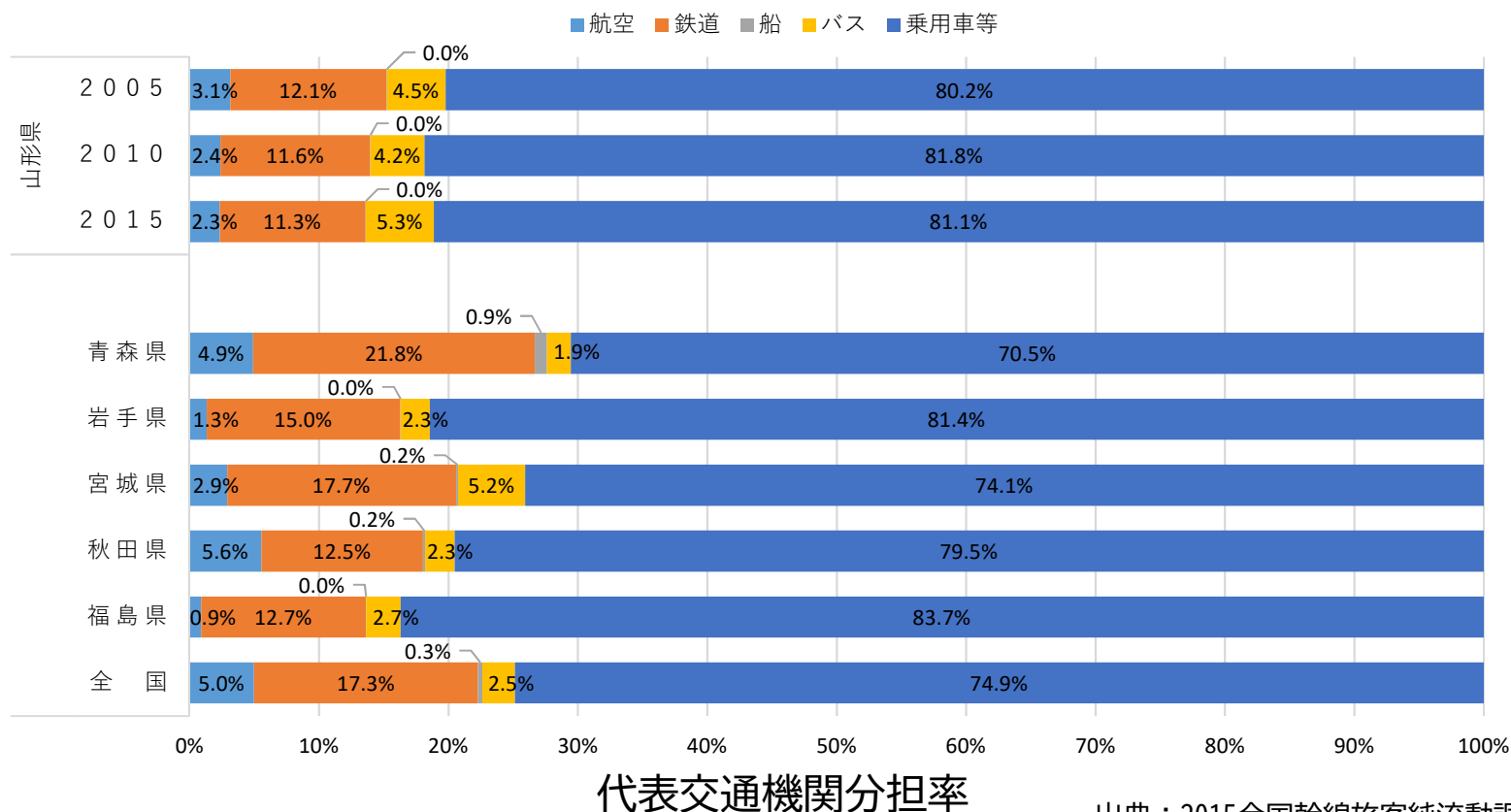
出典：2015全国幹線旅客純流動調査（国交省）

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(1) 交通流動の状況【国内広域移動】

- 本県を発着する都道府県間の移動における代表交通機関分担率※は、乗用車等が8割を占め、鉄道、バスが続いている。全国や東北の他県と比較すると、乗用車等の割合が高く、鉄道の割合が低い傾向にある。

※代表交通機関分担率：移動者が利用した主要交通機関別の割合。移動者が異なる交通機関を乗り継いだ場合、①航空 ②鉄道 ③幹線旅客船 ④幹線バス ⑤乗用車等 の順で代表交通機関を設定する。



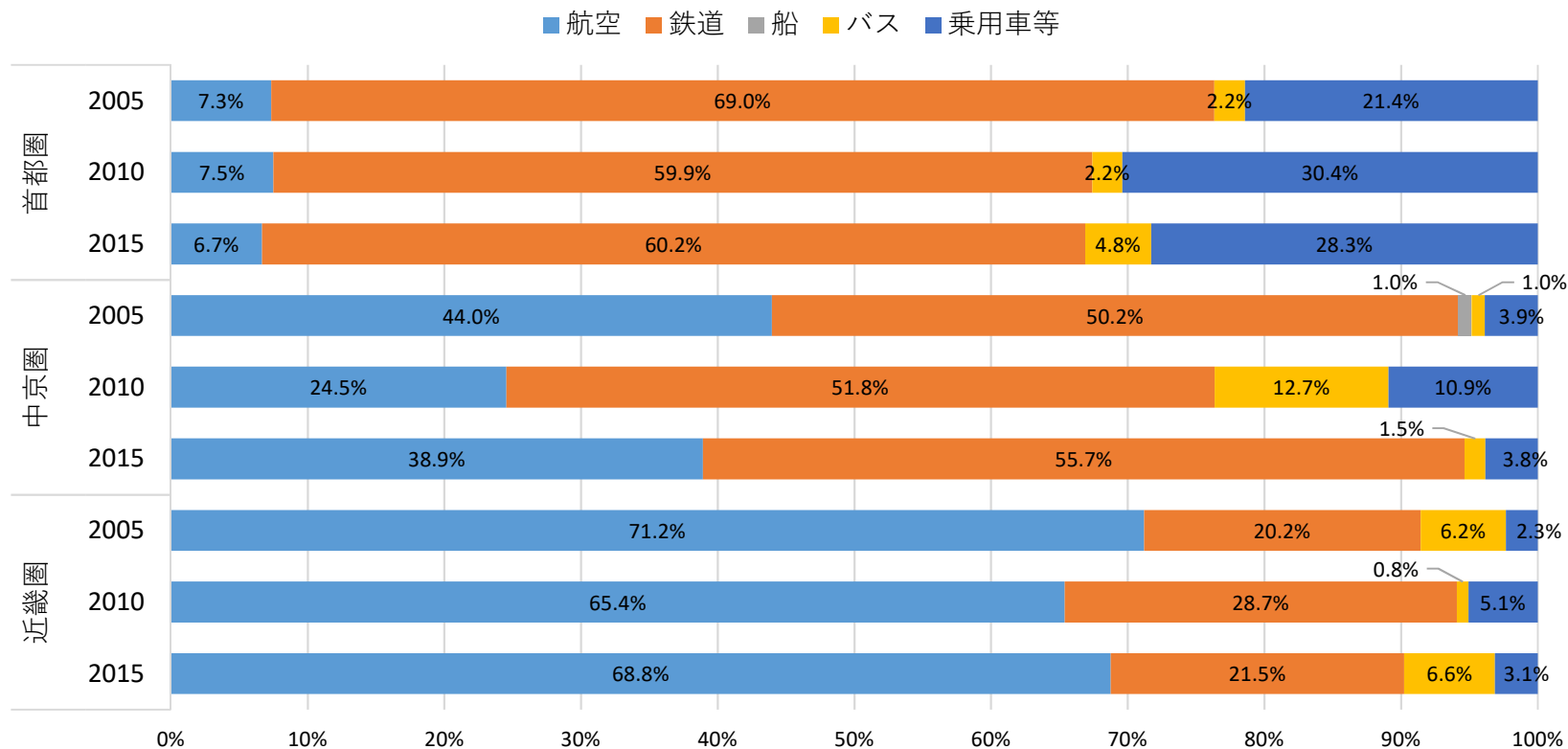
出典：2015全国幹線旅客純流動調査（国交省）

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(1) 交通流動の状況【国内広域移動】

- 本県と三大都市圏※との間の代表交通機関分担率は、首都圏や中京圏との間では鉄道が6割程度、近畿圏との間では航空が7割程度となっている。

※三大都市圏は、全国幹線旅客純流動調査における定義に基づく。首都圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）、中京圏（愛知県、岐阜県、三重県）、近畿圏（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県）



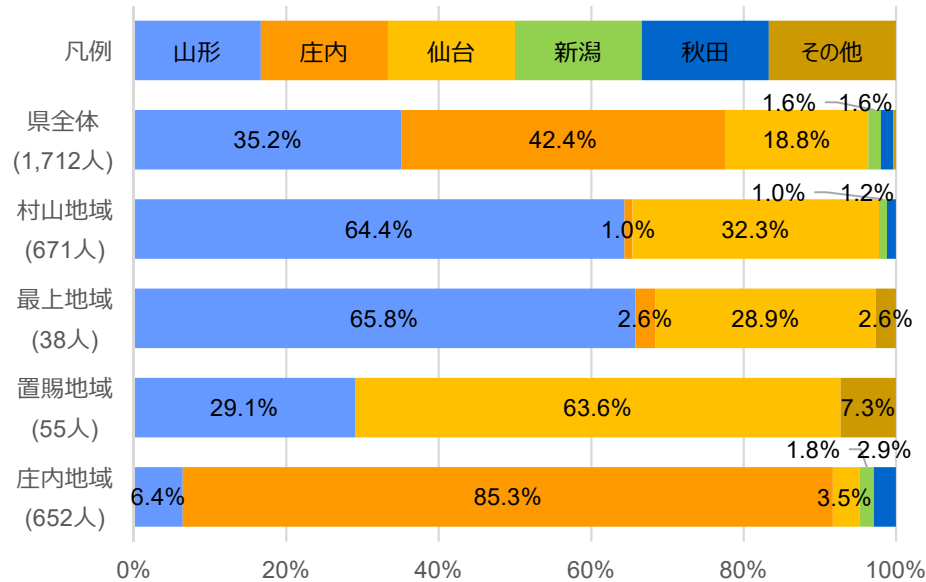
山形県と三大都市圏間の代表交通機関分担率

出典：全国幹線旅客純流動調査（国交省）

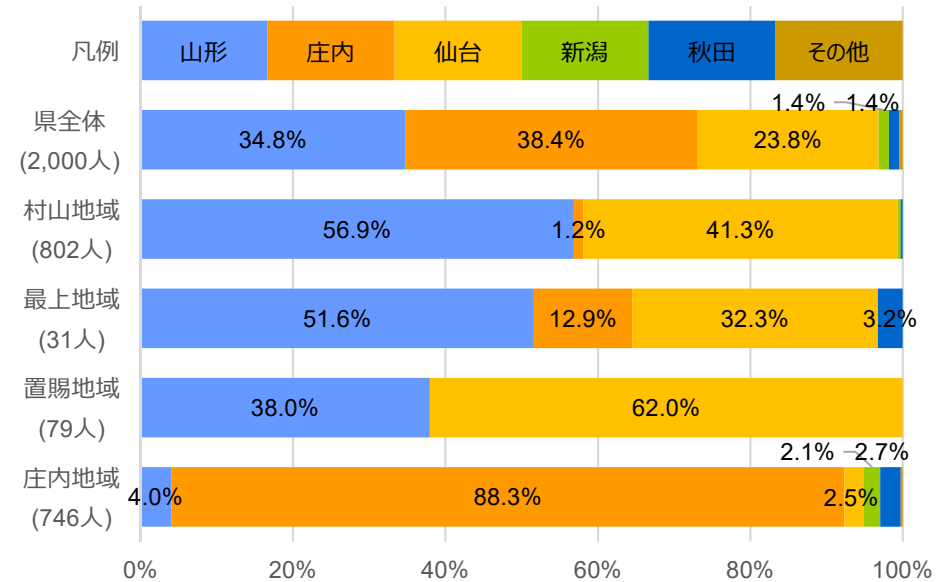
I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(1) 交通流動の状況【国内広域移動】

- 県内を出発地・目的地とする旅行者の利用空港は、県全体で見ると庄内空港が最も多く、次いで、山形空港、仙台空港が多い。
- 地域別にみると、村山地域・最上地域は山形空港、次いで仙台空港の利用が多く、置賜地域は仙台空港、次いで山形空港の利用が多い。庄内地域は庄内空港の利用が大半を占める。



県内を出発地・目的地とする
旅行者の利用空港（平日）



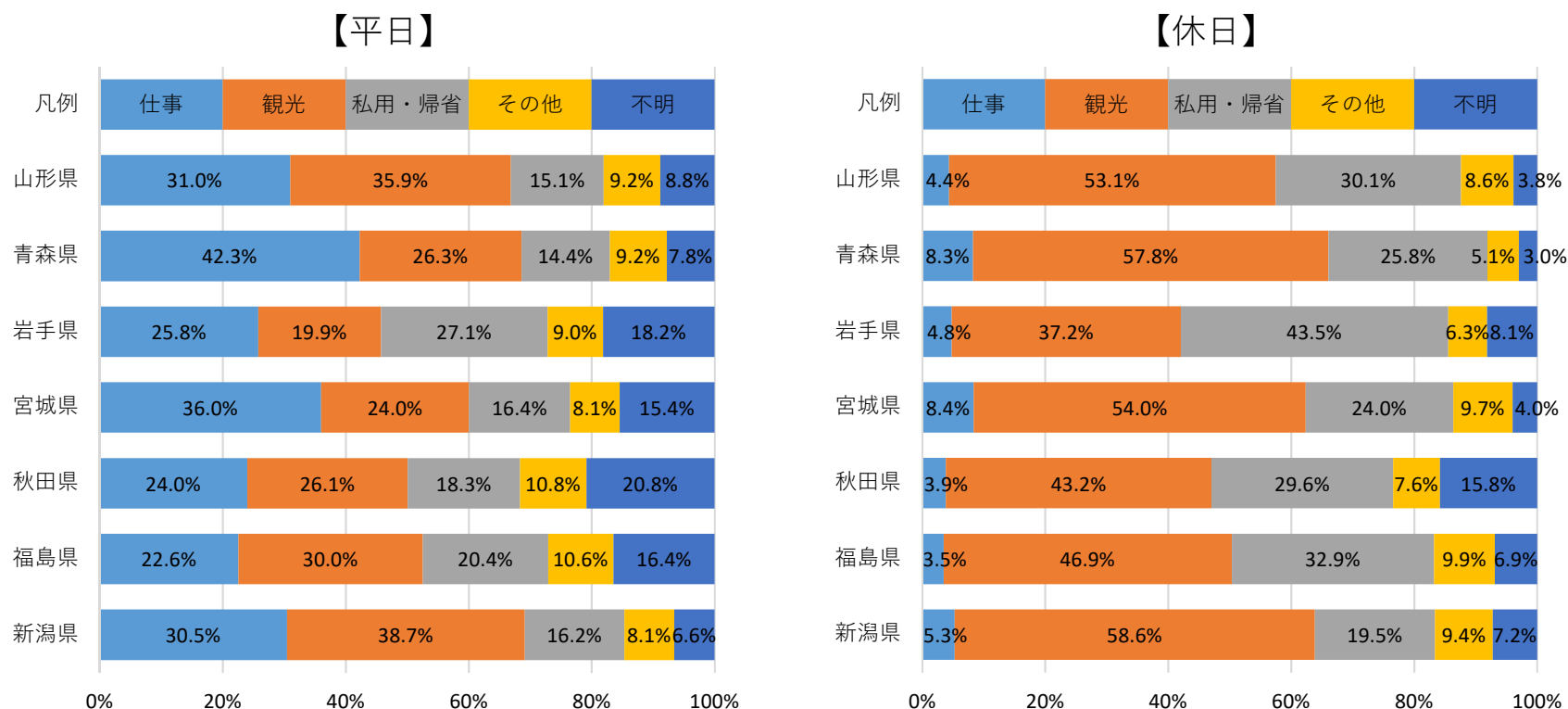
県内を出発地・目的地とする
旅行者の利用空港（休日）

出典：2019航空旅客動態調査（国交省）

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(1) 交通流動の状況【国内広域移動】

- 山形県内居住者の県外への旅行目的は、平日は観光が最も多く、次いで仕事が多い。休日も観光が半数を占め最も多く、次いで、私用・帰省が多い。
- 周辺県と比較すると、平日は青森県、宮城県、新潟県と比較して、仕事の割合が低い。休日は、あまり大きな違いはみられないが、観光の割合が周辺県と比較してやや高い。

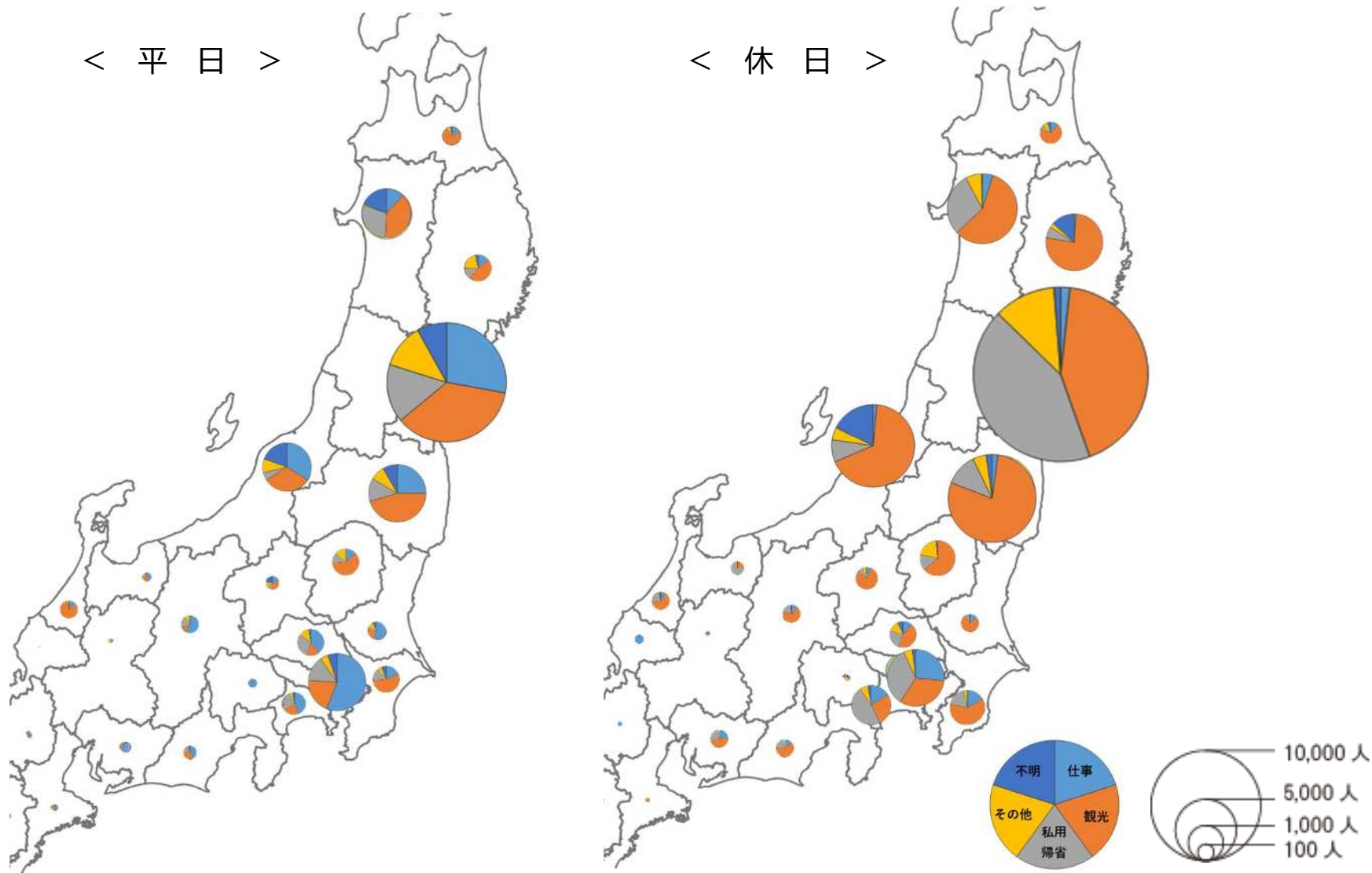


各県内居住者の目的別旅客流動量

出典：2015全国幹線旅客純流動調査（国交省）

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(1) 交通流動の状況【国内広域移動】

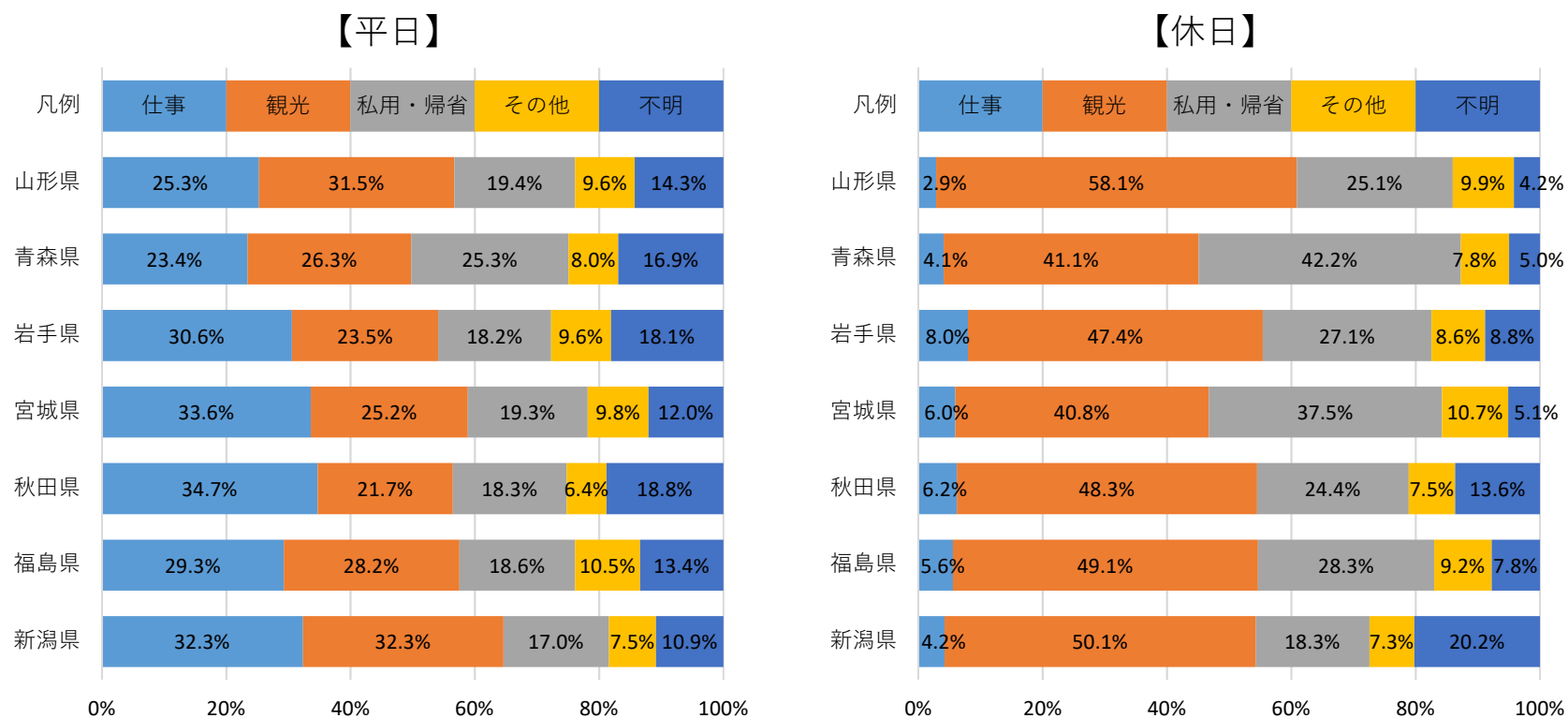


山形県内居住者の県外への旅行先・旅行目的 出典：2015全国幹線旅客純流動調査（国交省）

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(1) 交通流動の状況【国内広域移動】

- 山形県外居住者の山形県内への旅行目的は、平日は観光が最も多く、次いで、仕事、私用・帰省が多い。休日は、観光が最も多く半数以上を占める。次いで私用・帰省が多い。
- 周辺県と比較して、平日・休日ともに観光の割合がやや高い。

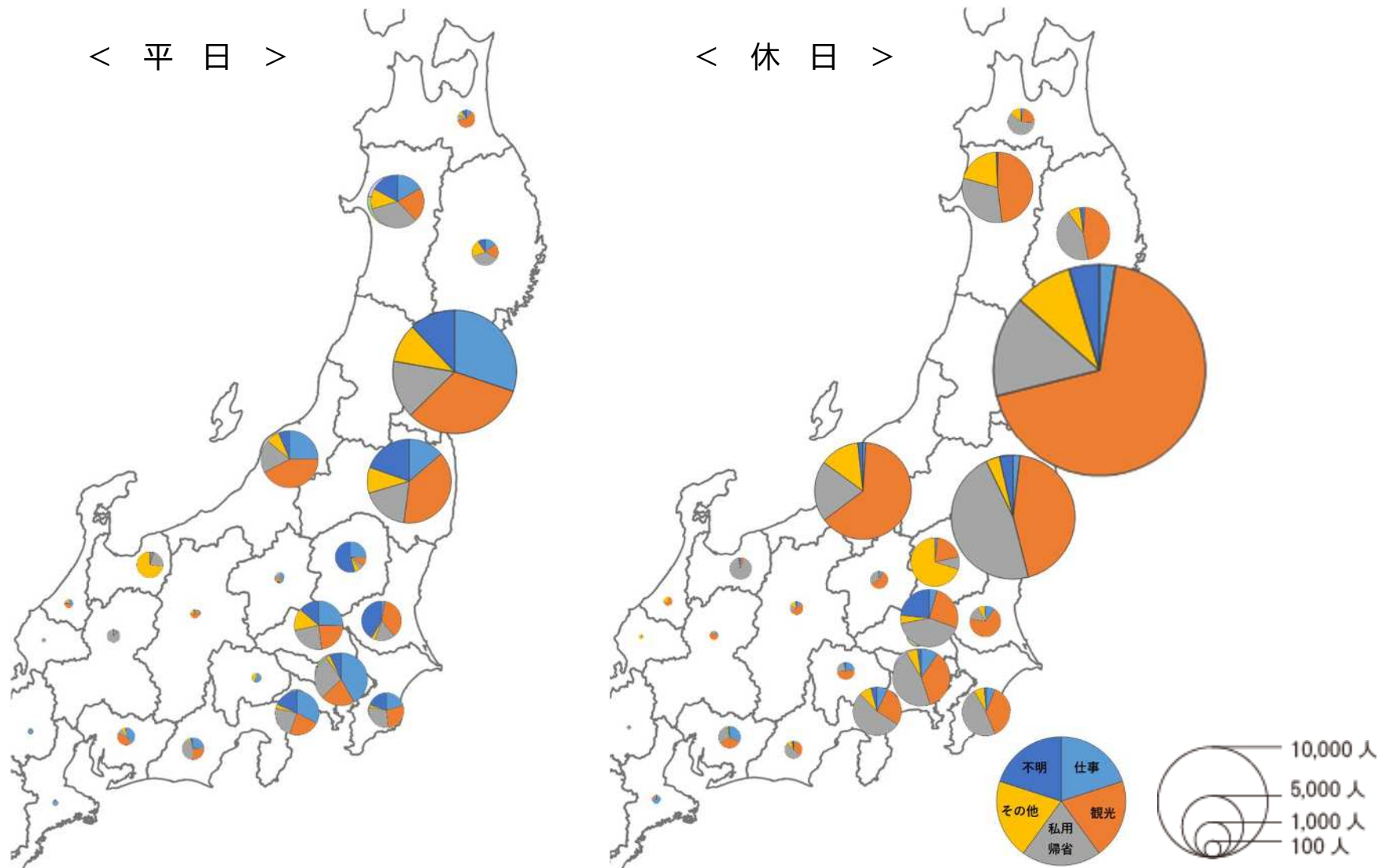


県外居住者の目的別旅客流動量

出典：2015全国幹線旅客純流動調査（国交省）

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(1) 交通流動の状況【国内広域移動】



山形県への旅行者の居住地・旅行目的

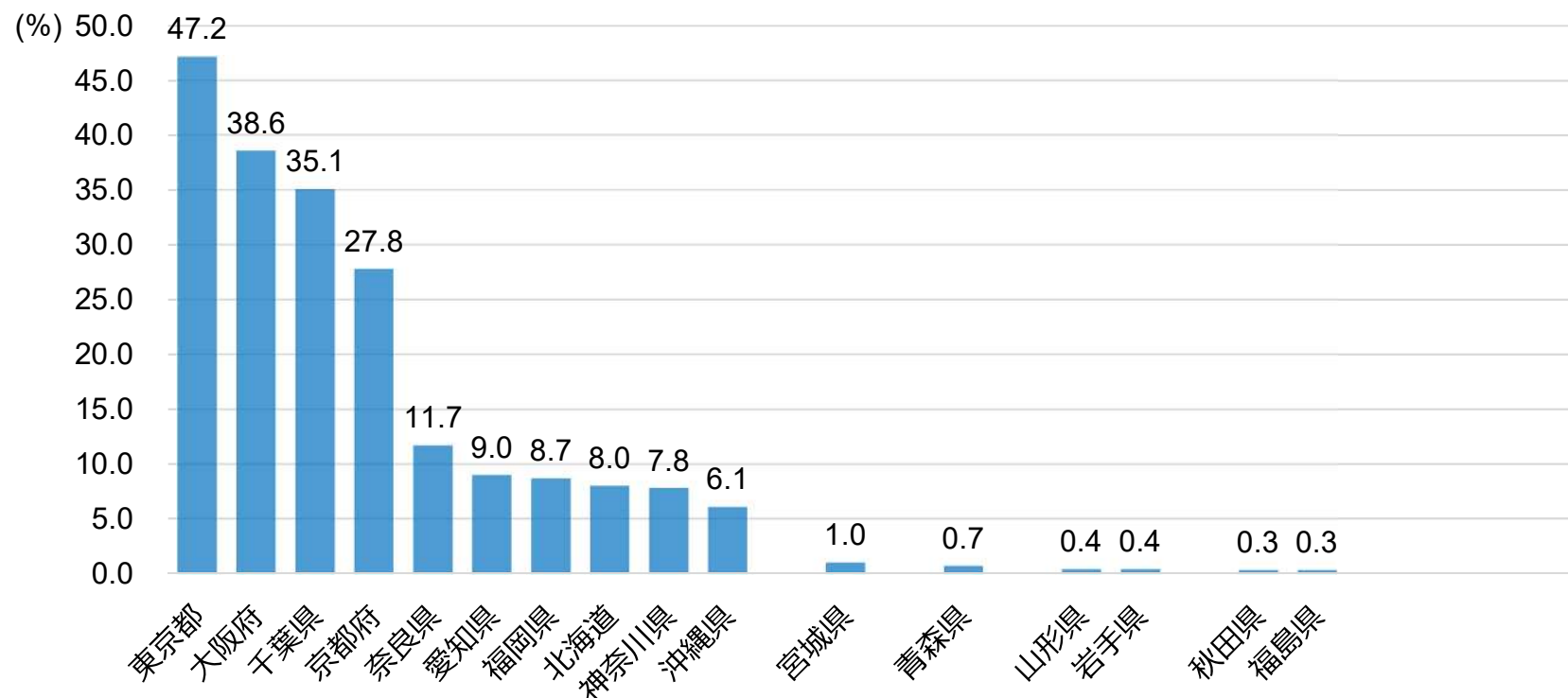
出典：2015全国幹線旅客純流動調査（国交省）

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(1) 交通流動の状況【国際移動】

- 本県を訪問する訪日外国人は年々増加傾向にあるものの、日本を訪れた外国人のうち本県を訪れた人の割合（訪問率）は0.4%前後で推移しており、全国でも低い水準にある。

訪問者数を東北各県と比較すると、宮城県、青森県に次ぐ3番目（岩手県と同率）の規模となっている。



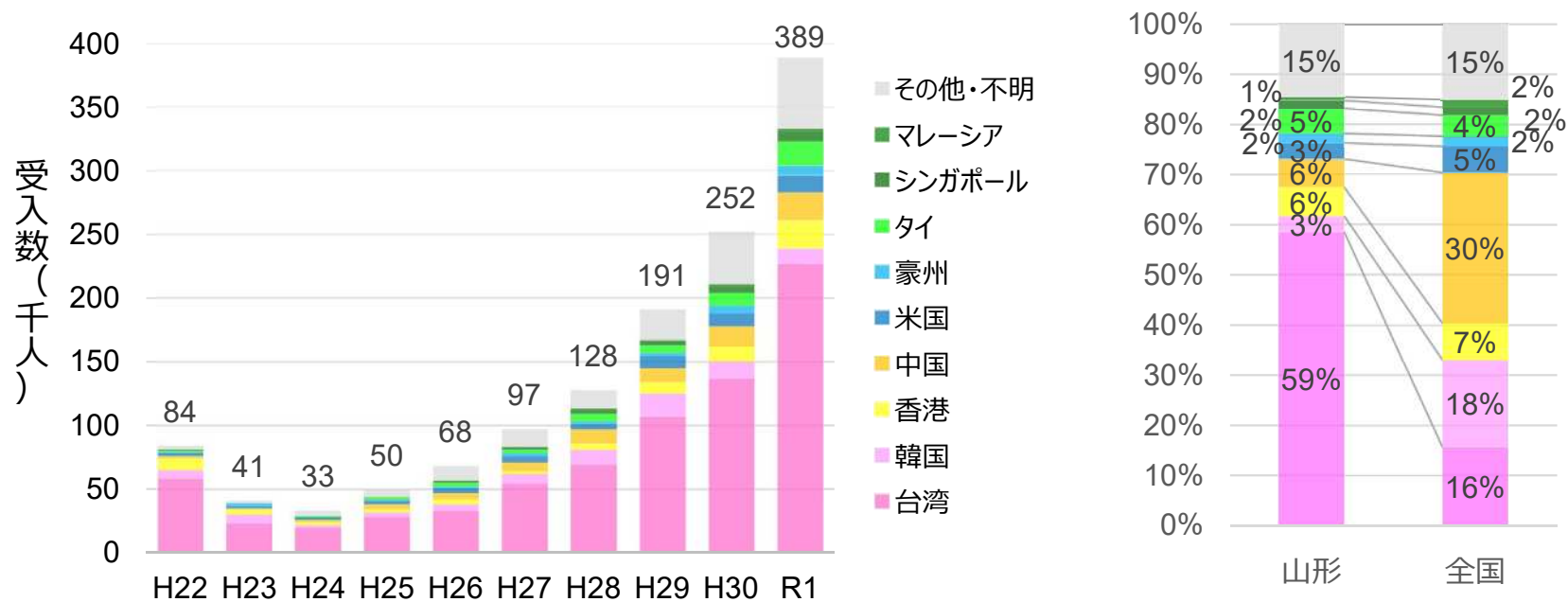
都道府県別訪日外国人訪問率

出典：R1訪日外国人消費動向調査（観光庁）

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(1) 交通流動の状況【国際移動】

- コロナ禍前は、本県の外国人受入数は年々増加していた。
- 国籍・地域別では台湾が最も多く50%以上を占めており、次いで香港、中国の順となっており、全国と比べ台湾の割合が高くなっている。

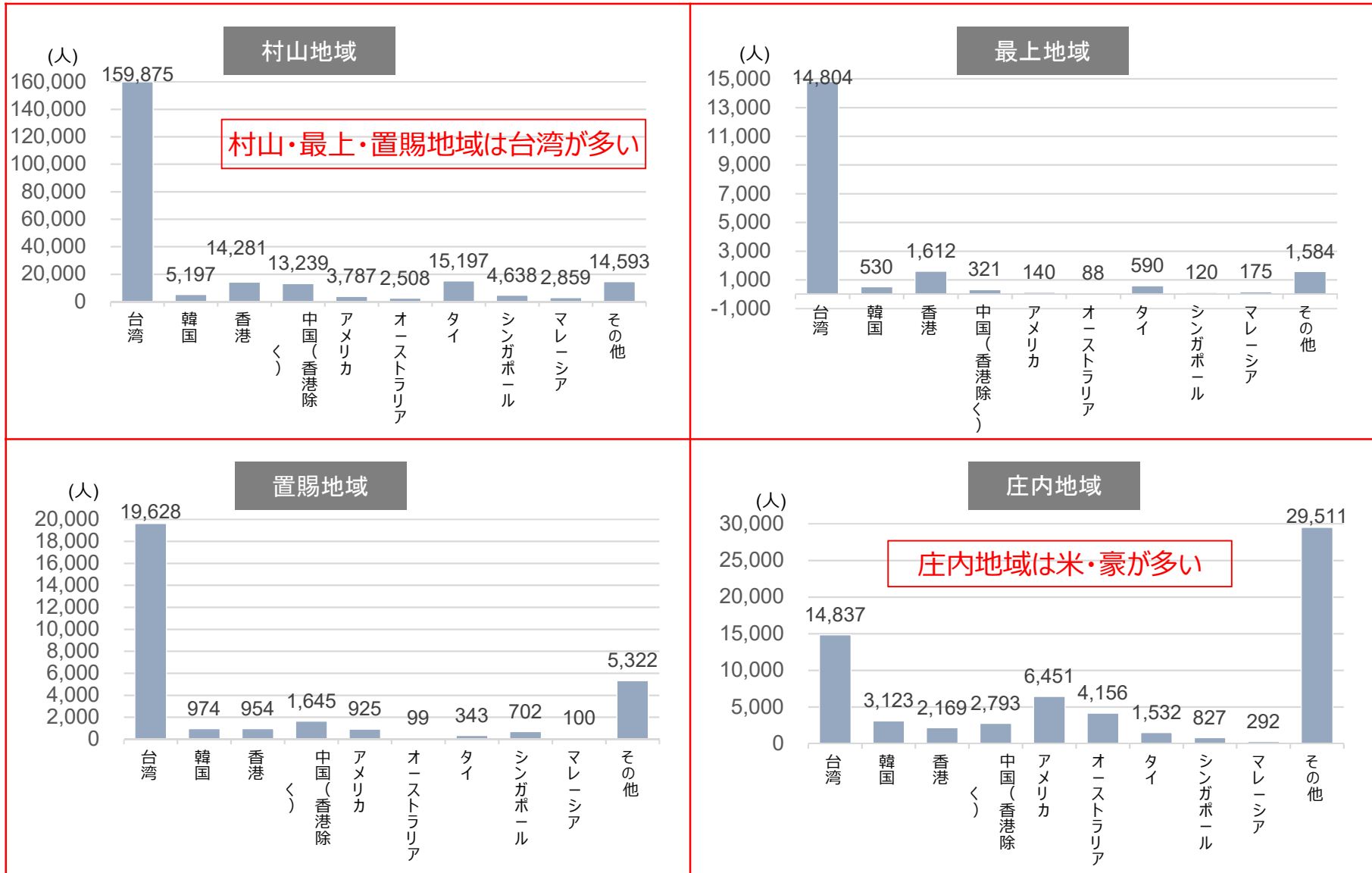


山形県の国別外国人受入数の推移
 (左図：実数値、右図：R1構成比 (山形県及び全国値との比較))

出典：令和元年度山形県観光者数調査 (山形県)、月別・年別統計データ (JNTO)

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(1) 交通流動の状況【国際移動】

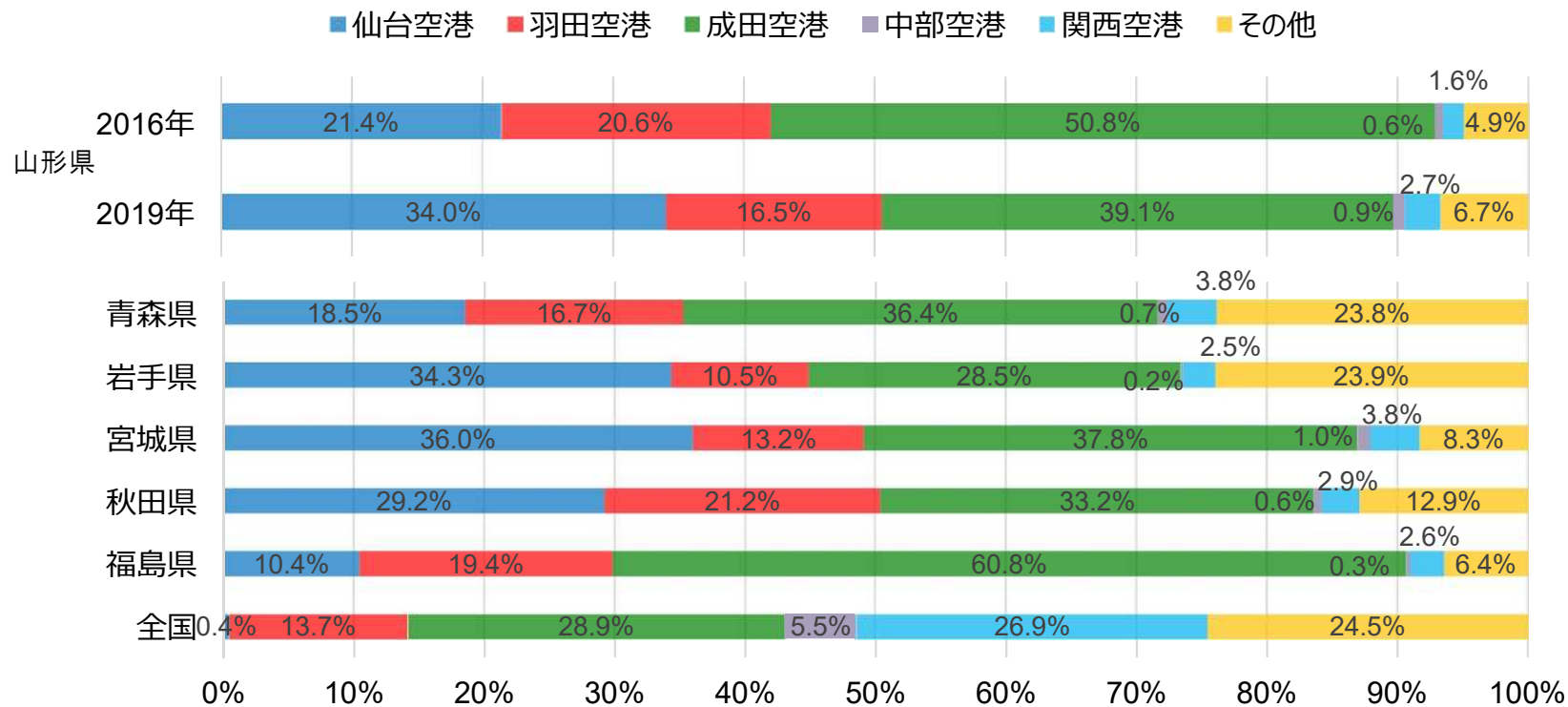


出典：令和元年度山形県観光者数調査（山形県）

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(1) 交通流動の状況【国際移動】

- 本県訪問者の入出国空港（令和元年）は、仙台空港の割合が34.0%と最も高く、次いで成田空港39.1%、羽田空港16.5%となっている。近年、仙台空港の割合が高まっている（平成28（2016）年：21.4%→令和元（2019）年：34.0%）。



出入国空港別訪日外国人訪問者構成比

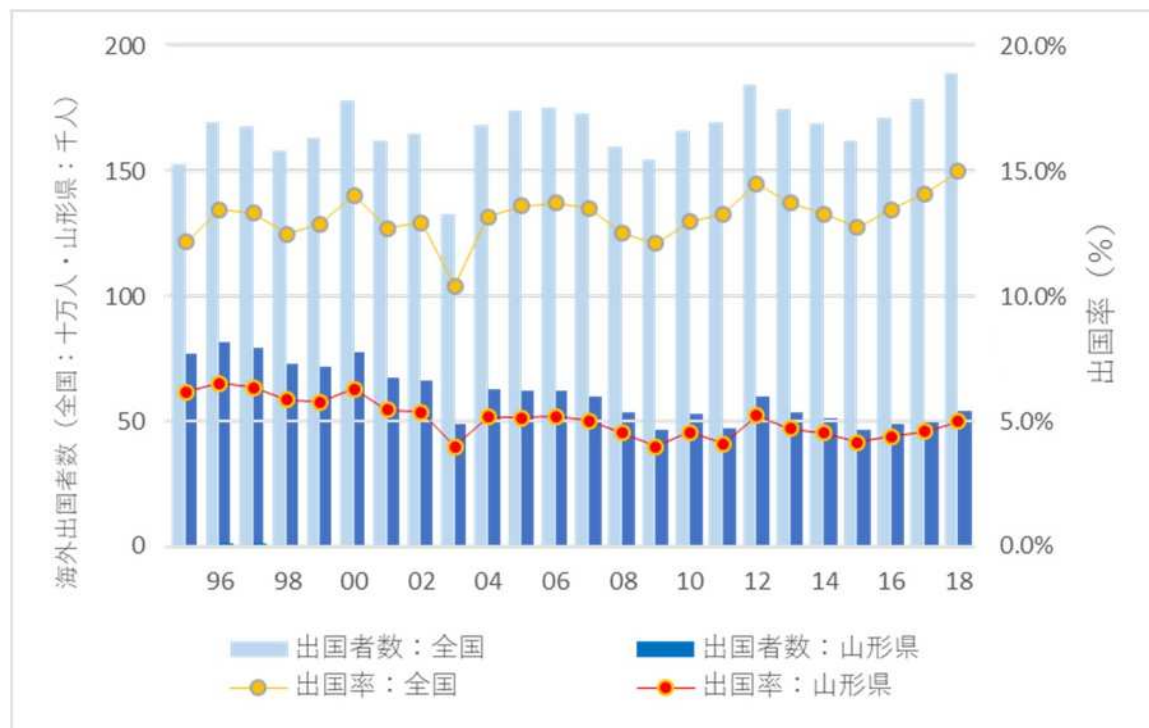
出典：訪日外国人流動データ（国土交通省）
出入国管理統計（法務省）

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(1) 交通流動の状況【国際移動】

- 山形県居住者の出国者数は、1996年の8万2千人をピークに減少傾向にあり、2018年は5万4千人とピーク時の6割程度の水準である。
- 出国率※も1996年をピークに減少傾向にあり、2018年は5%と周辺県の中では、中位にあるものの、全国の15%と比較すると低い水準である。

※出国率(%) = 出国者数 / 人口



出国者数・出国率の推移

出典：出入国管理統計（法務省）、人口推計（総務省）

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(2) 交通基盤の状況 ①空港の状況【国内便】

<山形空港の概要>

- 設置者：国土交通大臣 ●管理者：山形県（特定地方管理空港）
- 所在地：山形県東根市 ●運用時間：8:00～20:00
- 開港年月日：昭和39年6月8日 ●滑走路：長さ2,000m×幅45m
- 駐車場：759台（無料）
- 旅客ターミナルビル：（管理運営）山形空港ビル株式会社、（延べ床面積）5,311㎡
- 国内定期便：東京（羽田）便2往復<JAL>、大阪（伊丹）便3往復<JAL>、
（R5.4.1現在）名古屋（小牧）便2往復<FDA>、札幌（新千歳）便1往復<FDA>



[運航ダイヤ] (R5.3.26～10.28)

東京(羽田)便【JAL】

羽田発	山形着	山形発	羽田着	機材
7:15	8:15	9:50	10:55	E190(95席)
17:40	18:40	19:15	20:20	

名古屋(小牧)便【FDA】

名古屋発	山形着	山形発	名古屋着	機材
9:15	10:20	10:50	12:00	E170(76席/ E175(84席))
11:05	12:10	16:20	17:30	

大阪(伊丹)便【JAL】

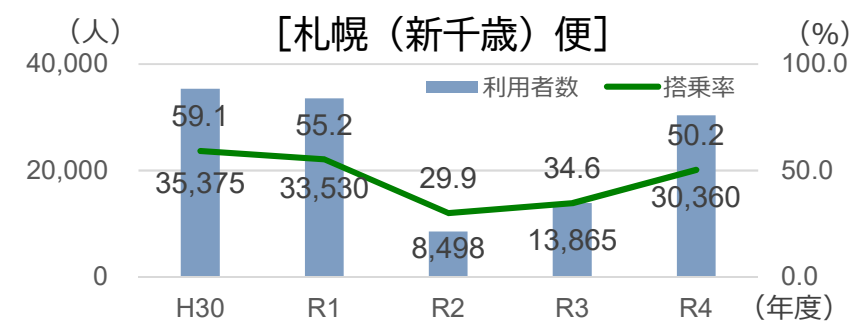
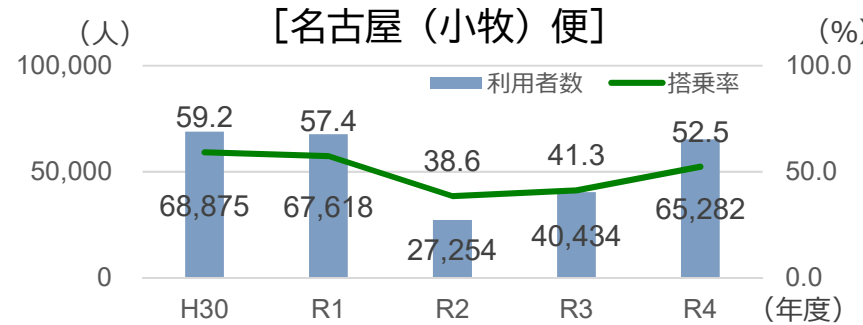
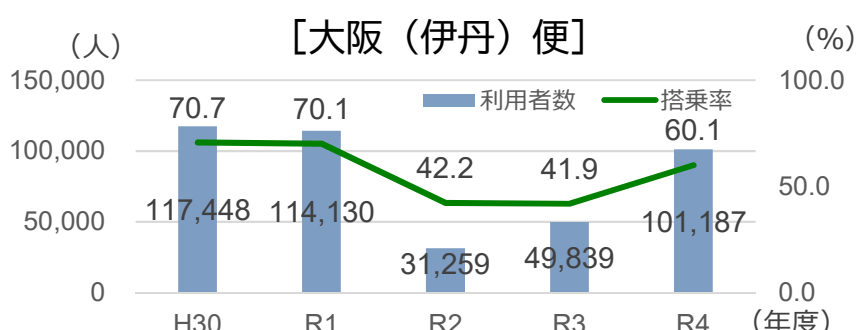
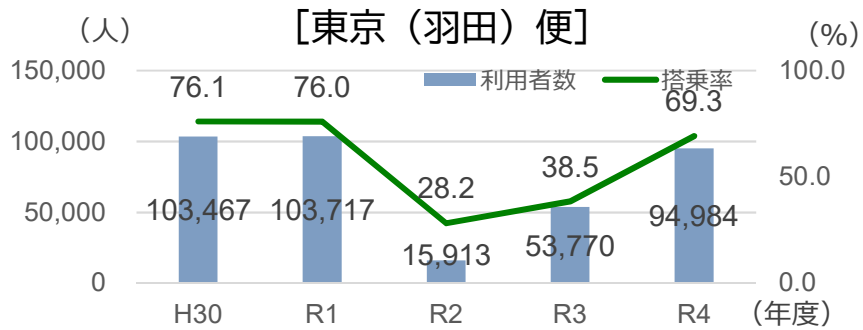
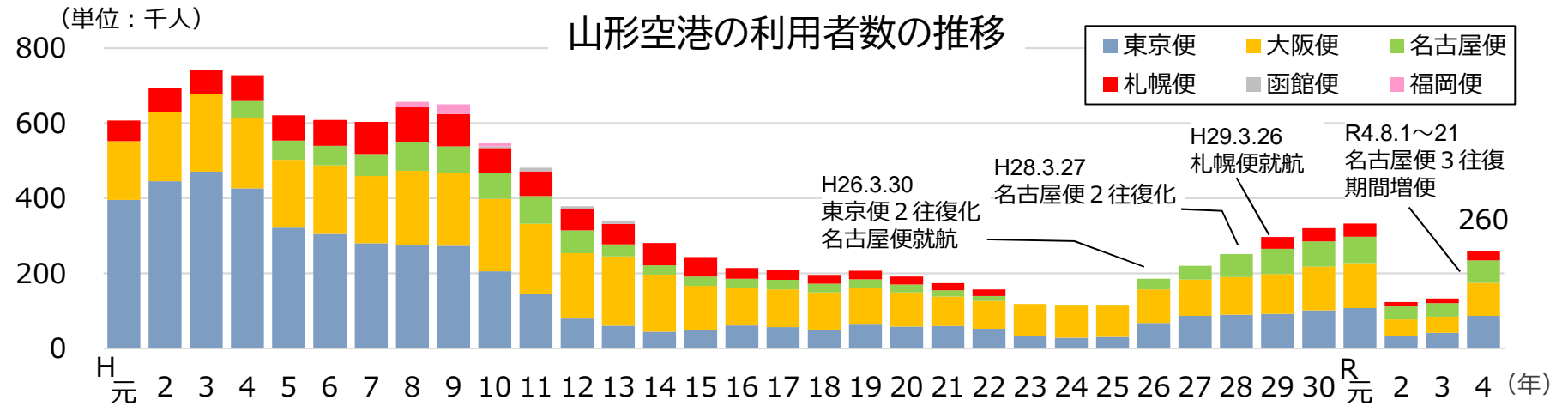
大阪発	山形着	山形発	大阪着	機材
8:00	9:15	8:50	10:10	E170(76席) E190(95席)
12:25	13:40	14:10	15:30	
16:05	17:20	17:50	19:10	

札幌(新千歳)便【FDA】

札幌発	山形着	山形発	札幌着	機材
14:35	15:50	12:40	14:00	E170(76席/ E175(84席))

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(2) 交通基盤の状況 ① 空港の状況【国内便】



出典：山形県みらい企画創造部作成資料

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(2) 交通基盤の状況 ①空港の状況【国内便】

<庄内空港の概要>

- 設置者・管理者：山形県（地方管理空港） ●所在地：山形県酒田市
- 運用時間：7:00～22:00 ●開港年月日：平成3年10月1日
- 滑走路：長さ2,000m×幅45m ●駐車場：519台（無料）
- 旅客ターミナルビル：（管理運営）庄内空港ビル株式会社
（延べ床面積）5,345.82㎡
- 国内定期便：東京（羽田便）4～5往復<ANA>



※R5.3.26～5.31及び10.1～10.28は期間限定で5往復に増便

[運航ダイヤ] (R5.3.26～10.28)

東京（羽田）便【ANA】

(2023/3/26-5/31、10/1～10/28)

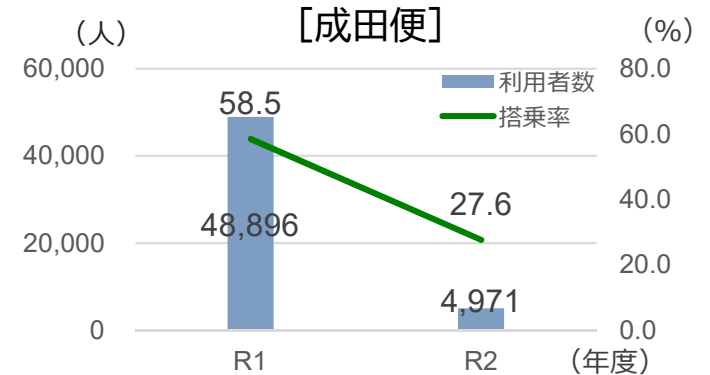
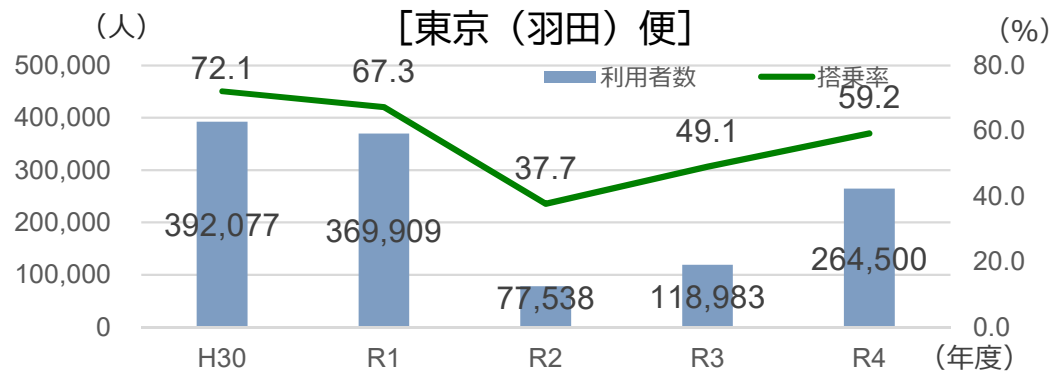
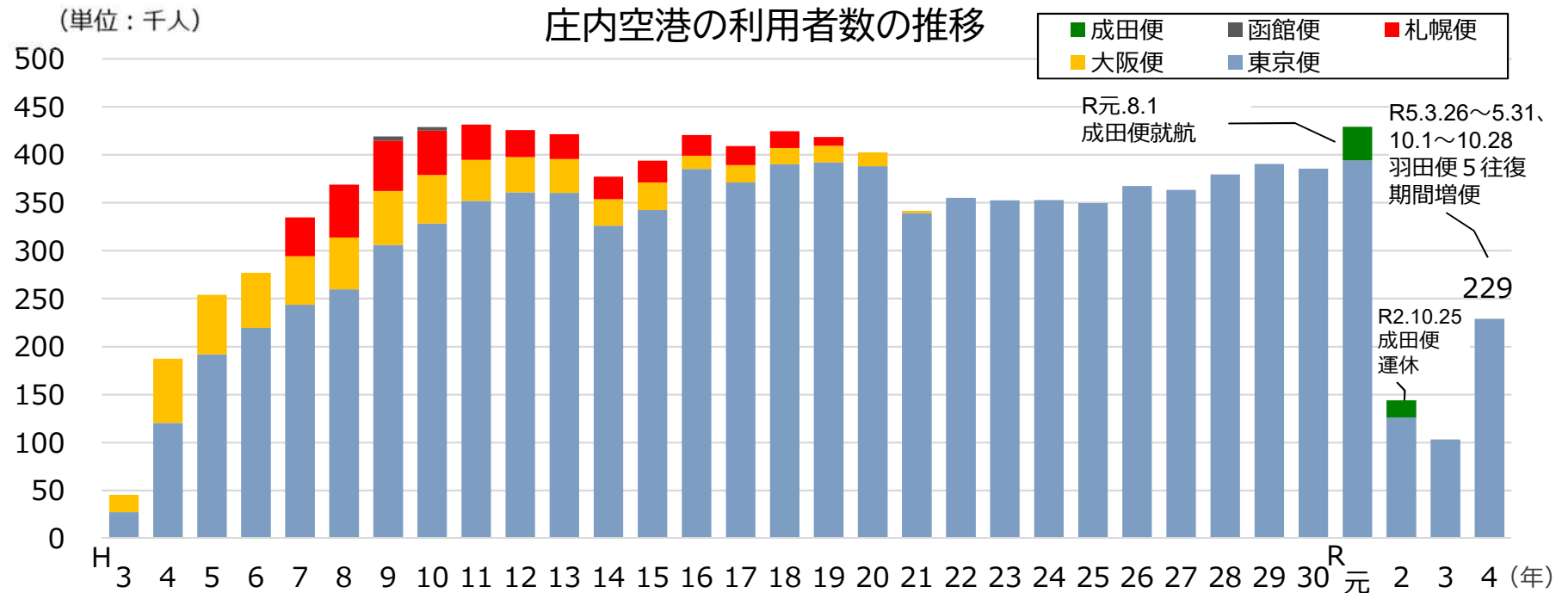
羽田発	庄内着	庄内発	羽田着	機材
7:05	8:05	7:10	8:15	A320(146席) A321(194席) B737-800 (166席)
10:35	11:35	8:45	9:50	
13:10	14:00	12:15	13:20	
16:05	17:05	14:55	16:00	
20:30	21:30	17:45	18:50	

(2023/6/1-9/30)

羽田発	庄内着	庄内発	羽田着	機材
7:05	8:05	7:10	8:15	A320(146席) A321(194席) B737-800 (166席)
11:25	12:25	8:45	9:50	
16:05	17:05	13:05	14:10	
20:30	21:30	17:45	18:50	

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(2) 交通基盤の状況 ① 空港の状況【国内便】



出典：山形県みらい企画創造部作成資料

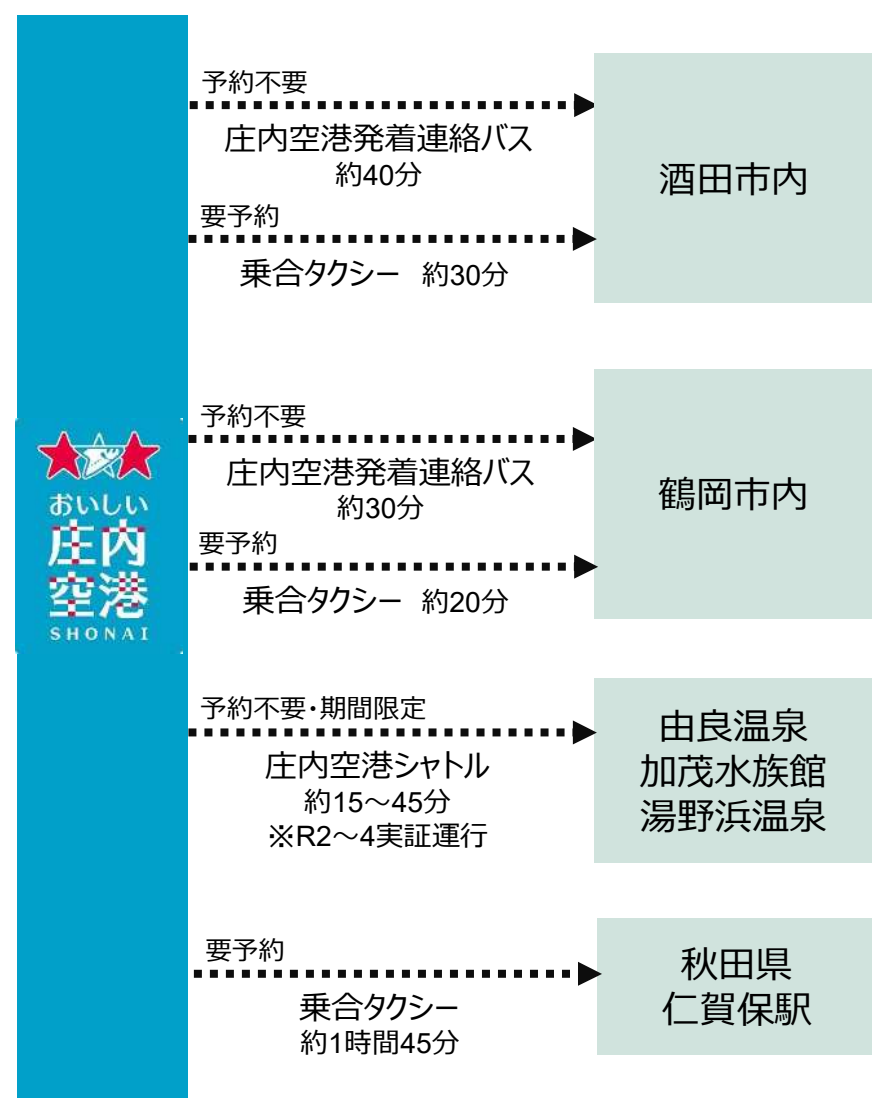
I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(2) 交通基盤の状況 ① 空港の状況【国内便】

<山形空港の二次交通>



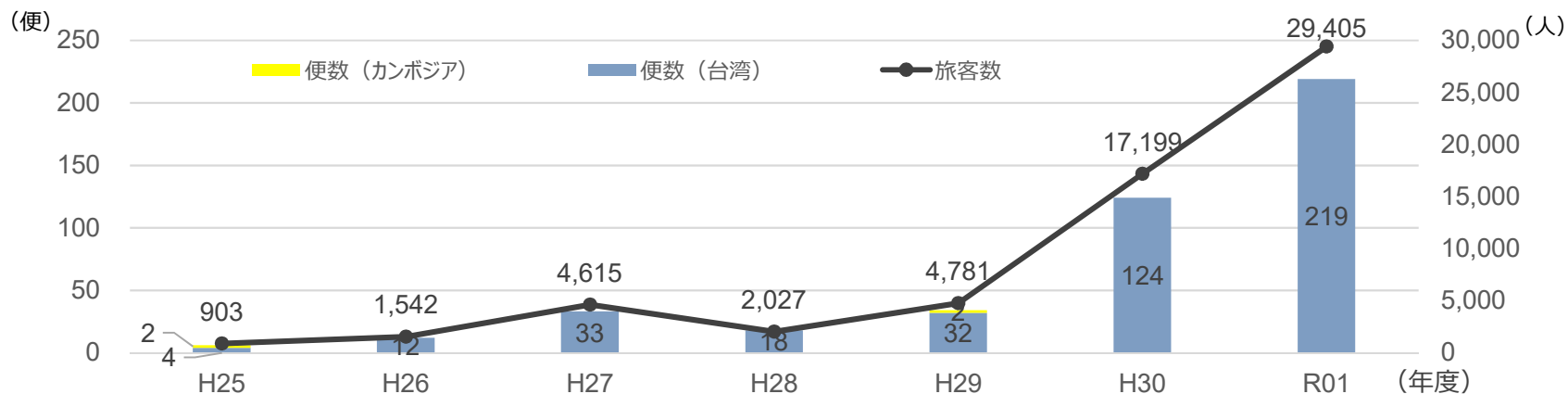
<庄内空港の二次交通>



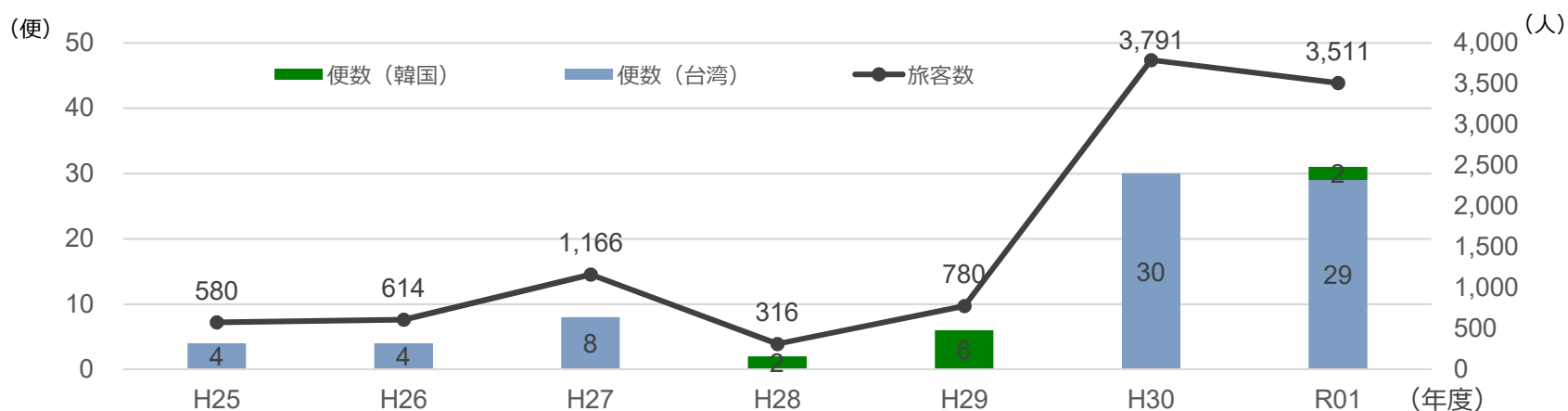
I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(2) 交通基盤の状況 ① 空港の状況【国際便】

○ 山形空港・庄内空港ともに、台湾チャーター便の運航が多く、新型コロナ感染拡大前は運航便数が増加傾向にあった。



山形空港の国際チャーター便の運航便数・旅客数



庄内空港の国際チャーター便の運航便数・旅客数

出典：山形県観光文化スポーツ部作成資料

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(2) 交通基盤の状況 ①空港の状況【国際便】

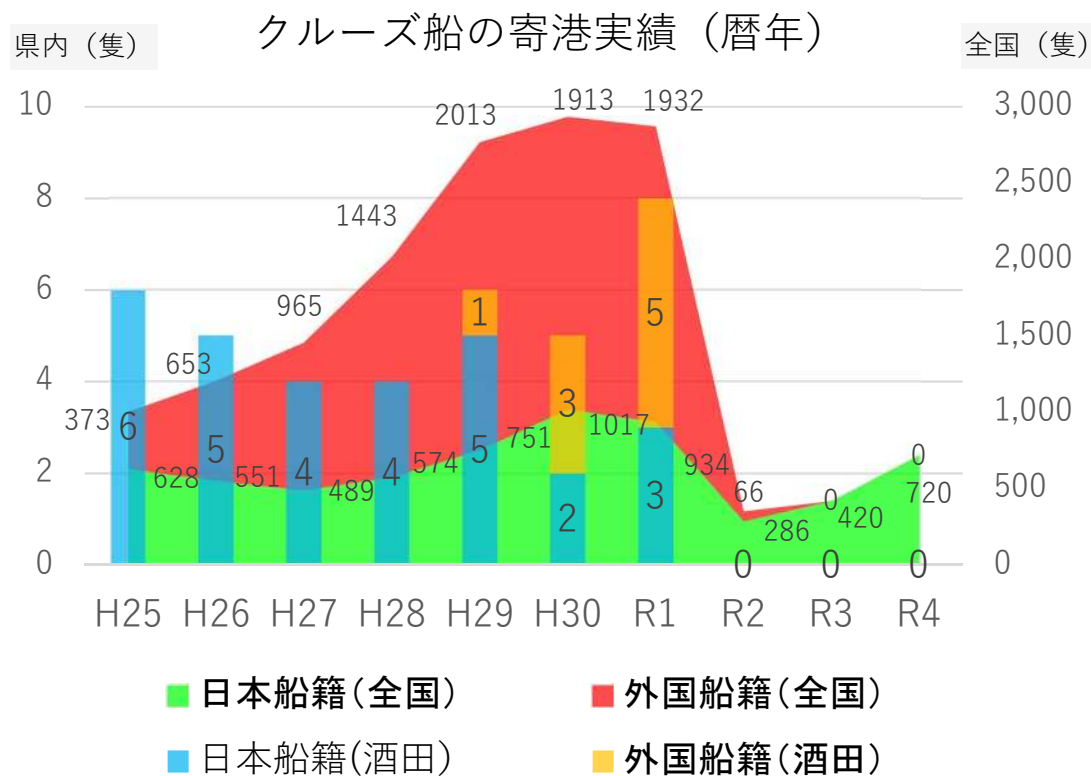
<東北管内空港等の空港機能>

	山形空港	庄内空港	青森空港	秋田空港	花巻空港	富山空港
滑走路長	2,000m × 45m	2,000m × 45m	3,000m × 60m	2,500m × 60m	2,500m × 45m	2,000m × 45m
国際線の 動線分離	○	×	○	○	○	○
CIQ施設の 常設	×	×	○	○	○	○
国際線の 就航	×	×	ソウル※ 台北※ ※チャーター便 にて運航	(ソウル)	台北 (上海)	ソウル※ 台北※ (大連) (上海) ※チャーター便 にて運航

出典：山形県みらい企画創造部作成資料（国際便の就航状況は令和5年5月現在のもので、括弧書きは運休便）

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(2) 交通基盤の状況 ② 港湾の状況



出典：訪日クルーズ旅客数及びクルーズ船の寄港回数（国交省）など

寄港船舶の一例(令和5年4月寄港)

船名	シルバー・ミューズ	ル・ソレアル	ダイヤモンド・プリンセス
船写真			
本社	シルバーシー・クルーズ (モナコ)	ポナン (フランス)	プリンセス・クルーズ (アメリカ)
総トン数	40,791t	10,944t	115,875t
乗客定数	596人 (1室2人使用時)	264人 (1室2人使用時)	2,706人 (1室2人使用時)
乗員数	411人	140人	1,100人
航路例	大阪→鹿児島→ 長崎→釜山→金 沢→新潟→酒田 →青森→函館→ 東京→神戸	小樽→酒田→佐 渡→富山→伊根 →鳥取→萩→釜 山→門司→御手 洗→鞆の浦→大 阪	横浜→青森→酒 田→金沢→境港 →釜山→鹿児島 →横浜

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(2) 交通基盤の状況 ③ 鉄道の状況

【山形新幹線（沿革）】

- 山形新幹線は、全国新幹線鉄道整備法に基づかない新在直通方式（ミニ新幹線）として、平成4年7月1日に山形～東京間が開業し、平成11年12月4日には新庄まで延伸

	山形新幹線開業(平成4年7月1日) 【福島～山形間 87.1km】 ※東京～福島272.8km	山形新幹線新庄延伸(平成11年12月4日) 【山形～新庄間61.5km】
最高速度	在来線区間:130km/h(従前 95km/h) 東北新幹線区間:275km/h(従前240km/h)	
到達時分	開業時:東京～山形間 最短2時間27分 ※従前の最短3時間9分より42分短縮 現行:(最短)2時間26分 (平均)2時間40分台	開業時:東京～新庄間 最短3時間05分 ※従前の最短3時間43分より38分短縮 現行:(最短)3時間11分 (平均)3時間30分台
列車本数	開業時:東京～山形間14往復 ※従前11往復 現行:東京～山形間16往復	延伸時:東京～新庄間8往復 山形～新庄間1往復 ※従前同様 現行:東京～新庄間 8.5往復 山形～新庄間 0.5往復
事業主体	山形ジェイアール直行特急保有(株)	(株)東日本旅客鉄道



400系(開業時)



E3系(現在)



E8系(2024年春)

- 奥羽本線(福島～米沢・山形新幹線を含む)の利用状況(平均通過人員 人/日)

S62	H4	H9	H14	H19	H24	H29	R1	R2	R3
9,860	9,592	9,638	9,547	9,526	8,986	9,447	8,985	2,701	3,731

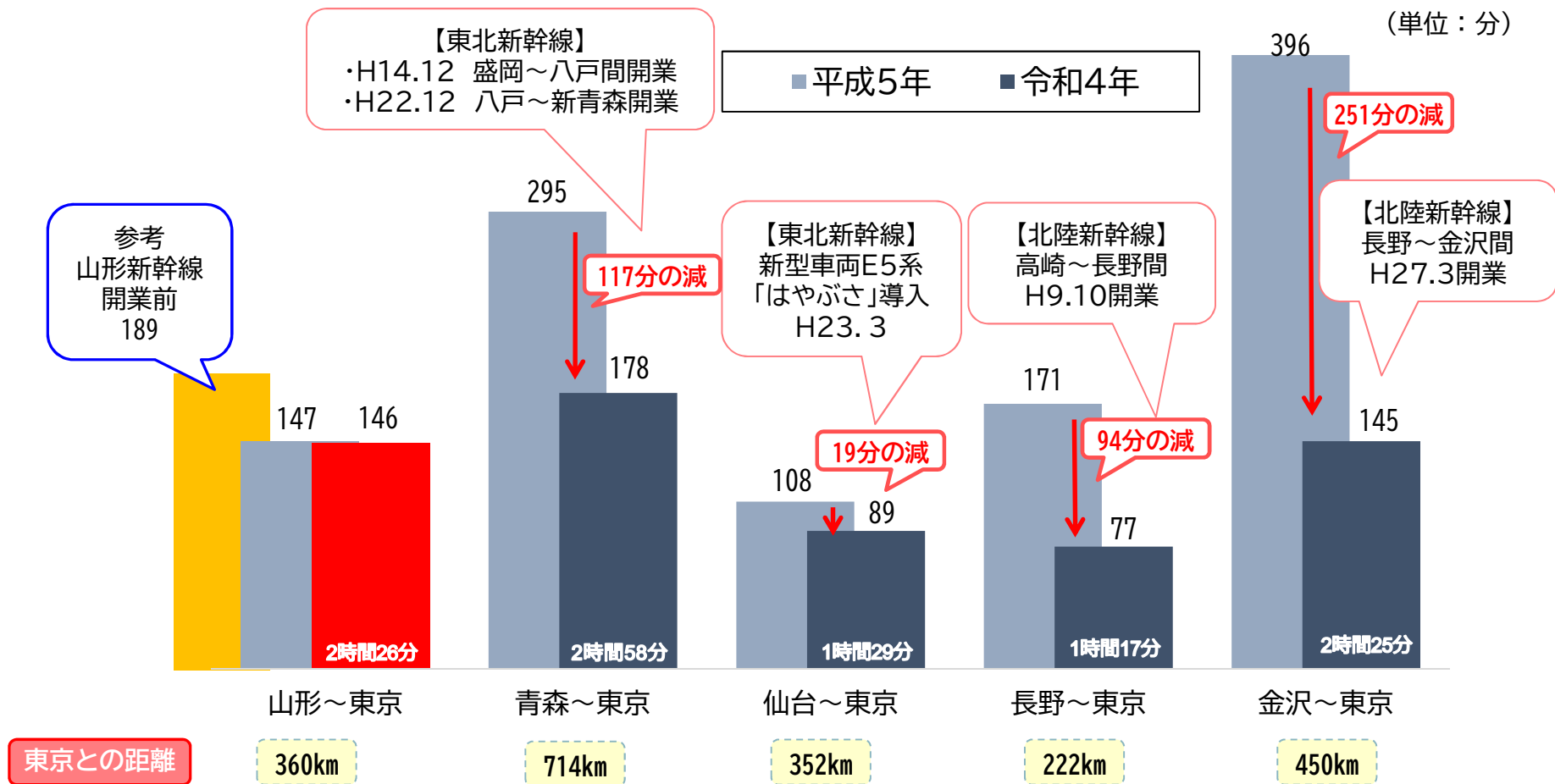
I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(2) 交通基盤の状況 ③鉄道の状況

【山形新幹線（他地域との比較）】

○ 各地で新幹線整備が進展し、首都圏からの所要時間の優位性が低下

■各地域と東京との鉄道路線の所要時間の推移(平成5年と令和4年との比較)



出典：JR時刻表

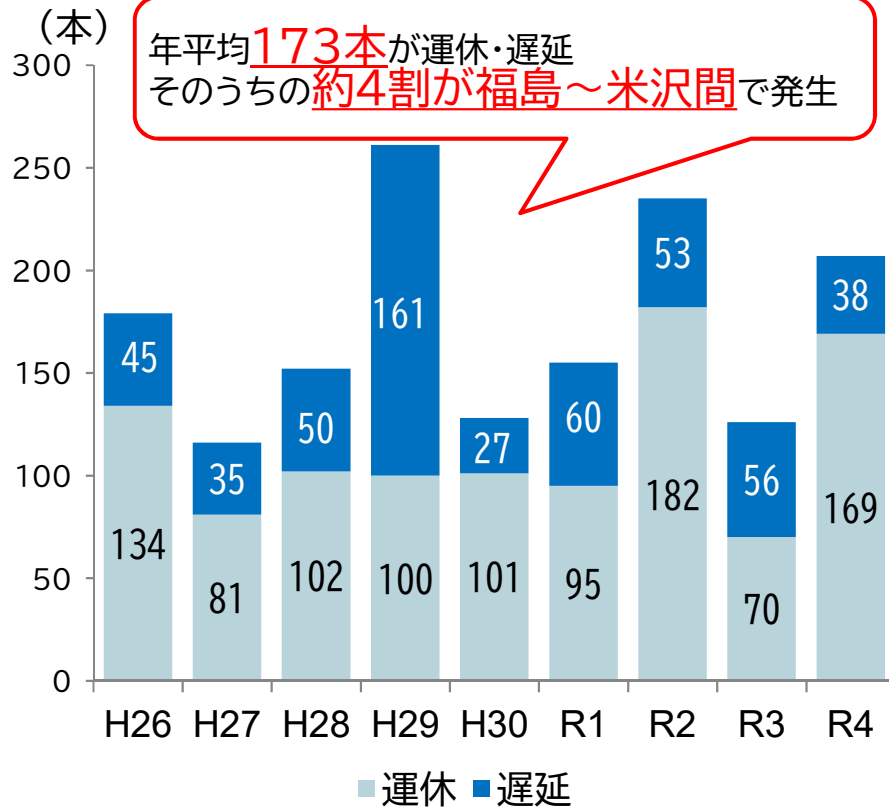
I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(2) 交通基盤の状況 ③ 鉄道の状況

【山形新幹線（輸送障害の状況）】

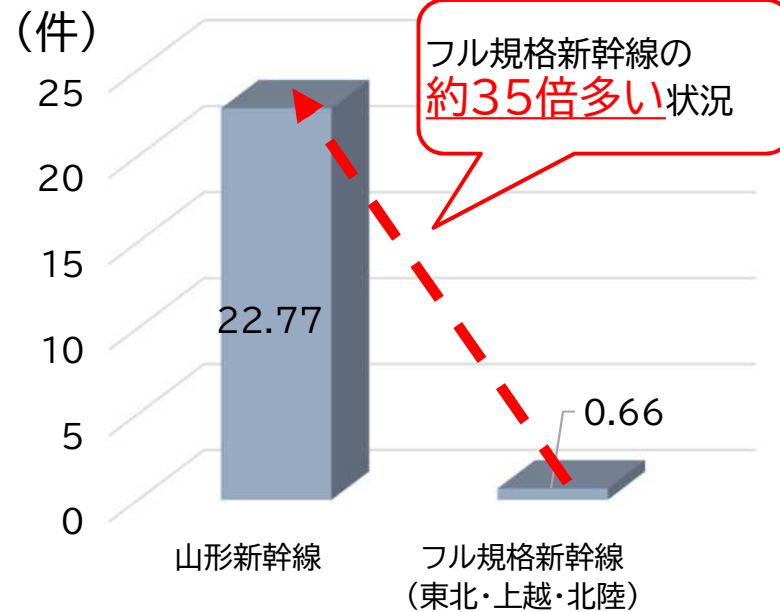
○ 山形新幹線は、本県と首都圏を結ぶ県民生活やビジネス、観光に欠かせない重要な社会基盤であるが、特に福島～米沢間において自然災害等による輸送障害が多発し、安全性や安定輸送の確保が喫緊の課題となっている

■山形新幹線の運休・遅延本数の推移 (気象変動等を原因とするもの)



出典：JR東日本公表情報より県作成

■フル規格新幹線と山形新幹線の 走行100万キロあたり輸送障害件数 (H26～R3年度：JR東日本管内)



出典：JR東日本提供データ、鉄軌道輸送の安全に関わる情報より県作成

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(2) 交通基盤の状況 ③鉄道の状況

【羽越本線】路線の概要

< 羽越本線(新潟駅～酒田駅)の概要 >

- 総延長 168.2km、複線化区間 104.6km(62.2%)
- 県内延長 66.1km、複線化区間 49.1km(74.3%)

※新潟県内は白新線区間も含む。



(E653 系いなほ)

所要時間(令和5年3月12日ダイヤ改正後)

		最速	平均	本数
鶴岡～東京	上り	3時間25分	3時間53分	7往復/日
	下り	3時間30分	3時間57分	
酒田～東京	上り	3時間44分	4時間13分	7往復/日
	下り	3時間49分	4時間16分	

平均通過人員(単位:人/日)

区間	S62年度	R元年度	R2年度	R3年度
村上～鶴岡	5,690	1,695	697	853
鶴岡～酒田	6,109	2,109	1,245	1,344
酒田～羽後本荘	4,393	977	645	680

鶴岡駅・酒田駅における1日平均の乗車人員の推移(単位:人)

	H12年度	H17年度	H22年度	H27年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
鶴岡駅	1,815	1,449	1,379	1,248	1,187	1,203	1,144	793	863
酒田駅	2,213	1,793	1,369	1,224	1,173	1,159	1,114	722	750

(JR東日本HP 各駅の乗車人員)

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(2) 交通基盤の状況 ③鉄道の状況

【羽越本線】高速化の状況

< 新型車両の投入 >

○平成25年9月ダイヤ改正から、加速性能の良い新型車両E653系が投入

○平成26年7月までに全7往復全ての置き換えが完了

【導入前(H25.3ダイヤ)】新潟～酒田 最速2時間6分／平均2時間10分

【導入後(H26.7ダイヤ)】新潟～酒田 最速2時間2分／平均2時間7分

⇒ 新潟～酒田間が、導入前に比べて、最速列車で4分、上下平均で3分短縮

< 新潟駅同一ホーム対面乗換 >

○H30.4.15新潟駅同一ホームの供用開始

○H31.3ダイヤ改正より、全7往復全てで同一ホーム乗換

⇒ 新潟駅での乗換時間が最短で7分まで短縮



(新潟駅同一ホーム乗換状況)

< 上越新幹線の最高速度向上 >

○R5.3.18から新潟～大宮間の最高速度が240km/hから275km/hに向上。

⇒ 所要時間が最大7分短縮



I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(2) 交通基盤の状況 ③鉄道の状況

【羽越本線】安全対策

< 羽越本線脱線事故 >

(羽越本線脱線事故)



○発生日時 平成17年12月25日(日) 19時14分頃

○概況 秋田駅発、新潟駅行の特急いなほ(6両編成)が砂越駅～北余目駅間を走行中、第二最上川橋梁を通過した付近で全車両が脱線、前3両が横転。死者5名、重軽傷33名

○原因 平成20年4月、航空・鉄道事故調査委員会(当時)により、「右から転覆限界風速を超えるような局所的な突風を受けたため、車両が左に傾斜して脱線した」との結論が出された。

< 最近のJR東日本の安全対策 > (JR東日本HPより)

○平成29年12月～ 突風に対する列車運行の安全性を高めるため、ドップラーレーダーを用いた突風に対する列車運転規制を実施。

○令和2年11月～ 渦の探知精度向上のため、渦(突風)の探知に、JR東日本と気象庁との共同研究で新たに開発した「AIを活用した手法」を導入。



(ドップラーレーダー)

※ドップラーレーダー:

降水量だけでなく上空の風を面的かつ連続的に観測することのできる気層観測装置。

突風の原因となる上空の渦の探知と追跡を行い、渦の進路を予測し、その予測範囲に含まれる区間の列車の運行を中止する。

< 運休・遅延の状況 >

※JR東日本の情報を県で独自に集計

	H16年度	H17年度	H22年度	H27年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
運休	103	1,836	746	257	567	370	295	810	786
遅延	89	76	571	137	327	213	117	285	312
合計	192	1,912	1,317	394	894	583	412	1,095	1,098

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(2) 交通基盤の状況 ④ 高速道路等の状況

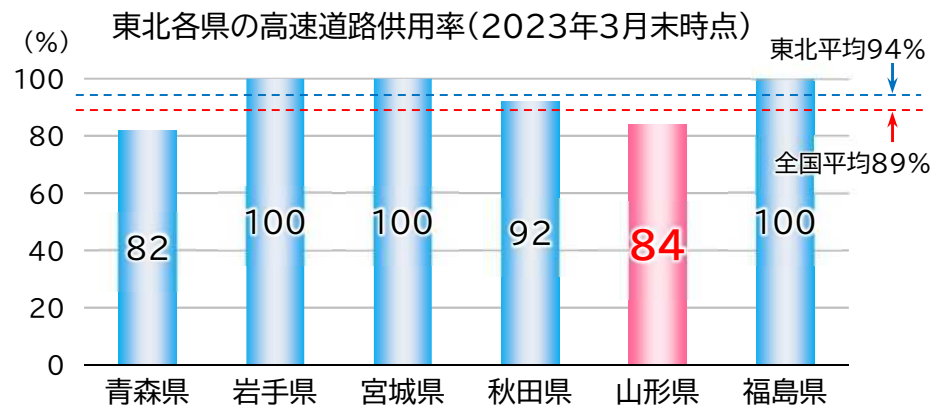
＜山形県の高速道路の整備推進状況＞



- 山形県の高速道路供用率は約84%に向上したものの、全国平均の89%、東北平均の約94%と比較して下回っている
- また、ミッシングリンクは5箇所あり、高速道路ネットワークとしての十分な機能が発揮されていない

山形県内の高速道路整備の進捗状況（供用率）

路線名	2013年5月末	2023年3月末
東北中央自動車道	41%	92%
日本海沿岸東北自動車道	49%	60%
東北横断自動車道酒田線	84%	84%
全体	59%	84%



出典：山形県県土整備部作成資料（令和5年4月現在）

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(2) 交通基盤の状況 ④ 高速道路等の状況

東北中央自動車道（東根北IC～村山本飯田IC）開通後の交通状況

▼今回開通区間及び交通量計測箇所図



●今回開通区間の交通状況

- 今回開通区間（東根北IC～村山本飯田IC）の全日交通量は、14,300台/日。並行する国道13号と合わせた断面交通量は、約1.2倍に増加（4,800台/日増加）。
- 国道13号の全日交通量は、約3割減少（9,500台/日減少）し、国道13号の交通負荷が軽減。
- 既開通区間の交通状況
- 東北中央自動車道の既開通区間の全日交通量は、東根～尾花沢間(大石田村山IC～尾花沢IC)では、約1.3倍に増加（3,800台/日増加）し、並行する国道13号と合わせた断面交通量は約1.1倍に増加（2,800台/日増加）。
- 新庄ICや福島・山形県境付近での東北中央自動車道の既開通区間の全日交通量は、約1.1倍に増加。
- 沿線自治体【共通】の声
- 今回の開通により、観光イベント等に県内ナンバーはもとより、県外ナンバー（福島県・関東）の来訪も見られ、高速ネットワークが首都圏まで繋がったことによる効果を大いに感じている。

▼東北中央自動車道及び国道13号の交通状況

計測日：【開通前】令和4年9月3日(土)～9日(金)、【開通後】令和4年11月5日(土)～11日(金)
※『全国旅行支援～やまがた旅割キャンペーン～』が令和4年10月11日から実施

断面	〈 全日 〉		〈 平日 〉		〈 休日 〉	
	開通前	開通後	開通前	開通後	開通前	開通後
断面①：舟形～新庄	294	312	300	313	284	310
断面②：大石田村山～尾花沢	246	274	246	270	245	284
断面③：村山～村山名取	276	324	280	322	267	327
断面④：福島大笹生～米沢八幡原	118	127	112	116	137	157



沿線自治体の声

- 道の駅 尾花沢は、ICからのアクセスが良い位置にあり、駐車場は従来のイベント時より混み合い、全線開通の効果を感じている。売上も従来よりUPしており開通効果と認識している。
- 今回、道の駅15周年ということもあり、同時イベントとして開催でき、インパクトあるPRもできたと思う。更なる観光活性化に繋げていく。



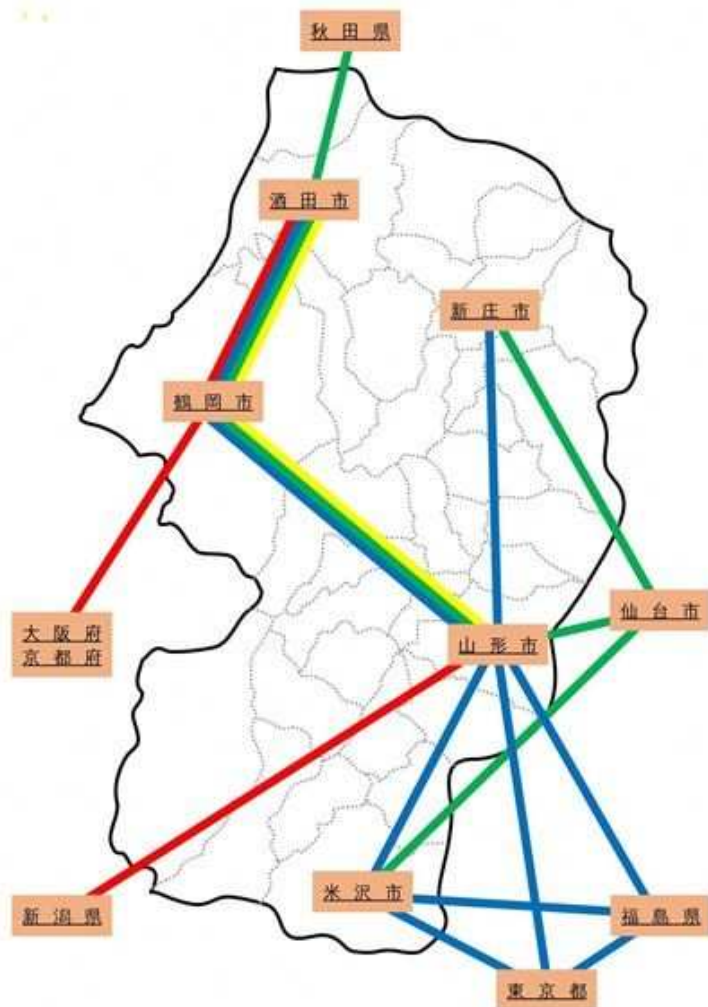
沿線自治体の声

- 休日来訪者数は、開通後に増加が見られた。
- 今回、新庄市から首都圏まで繋がったことを機に、【山形県の南の玄関口】としてより一層、当道の駅はじめ、県内の観光名所の情報を発信していく予定。また、来訪者1千万人突破を目指し、イベントなどを企画していきたい。

I 山形県の交通の現状 1 国内外の広域的な移動

(2) 交通基盤の状況 ⑤高速バスの状況

○ 県内市町と仙台市を結ぶ路線を中心とする横軸方向を結ぶ路線のほか、東北圏と東京都を結ぶ縦軸方向のバスネットワークを形成している。



	発地	経由地	着地	便数合計	備考
県内	山形	寒河江市、西川町	鶴岡 (酒田)	8 (5)	
	山形 (上山)	(山形市)	仙台	97 (8)	仙台線5便、仙台空港線全便(8便)運休中
仙台方面	米沢	—	仙台	6	
	新庄	舟形町、尾花沢市、村山市、東根市	仙台	9	
	酒田 (秋田)	(由利本荘市)、鶴岡市、西川町、寒河江市	仙台	13 (3)	4便運休中
	山形 (天童)	上山市、南陽市、米沢市、福島県	東京	7 (1)	1便運休中
東京方面	新庄	舟形町、尾花沢市、村山市、東根市、天童市、寒河江市、山形市	東京	1	全便運休中
	酒田	庄内町、鶴岡市、山形市、埼玉県	東京 (神奈川)	4 (1)	1便運休中
	山形	上山市、南陽市、飯豊町、小国町	新潟	2	
その他	酒田	庄内町、鶴岡市	大阪 京都	1	全便運休中

山形県内発着の高速バスのネットワーク および運行頻度 (2023年4月1日時点)

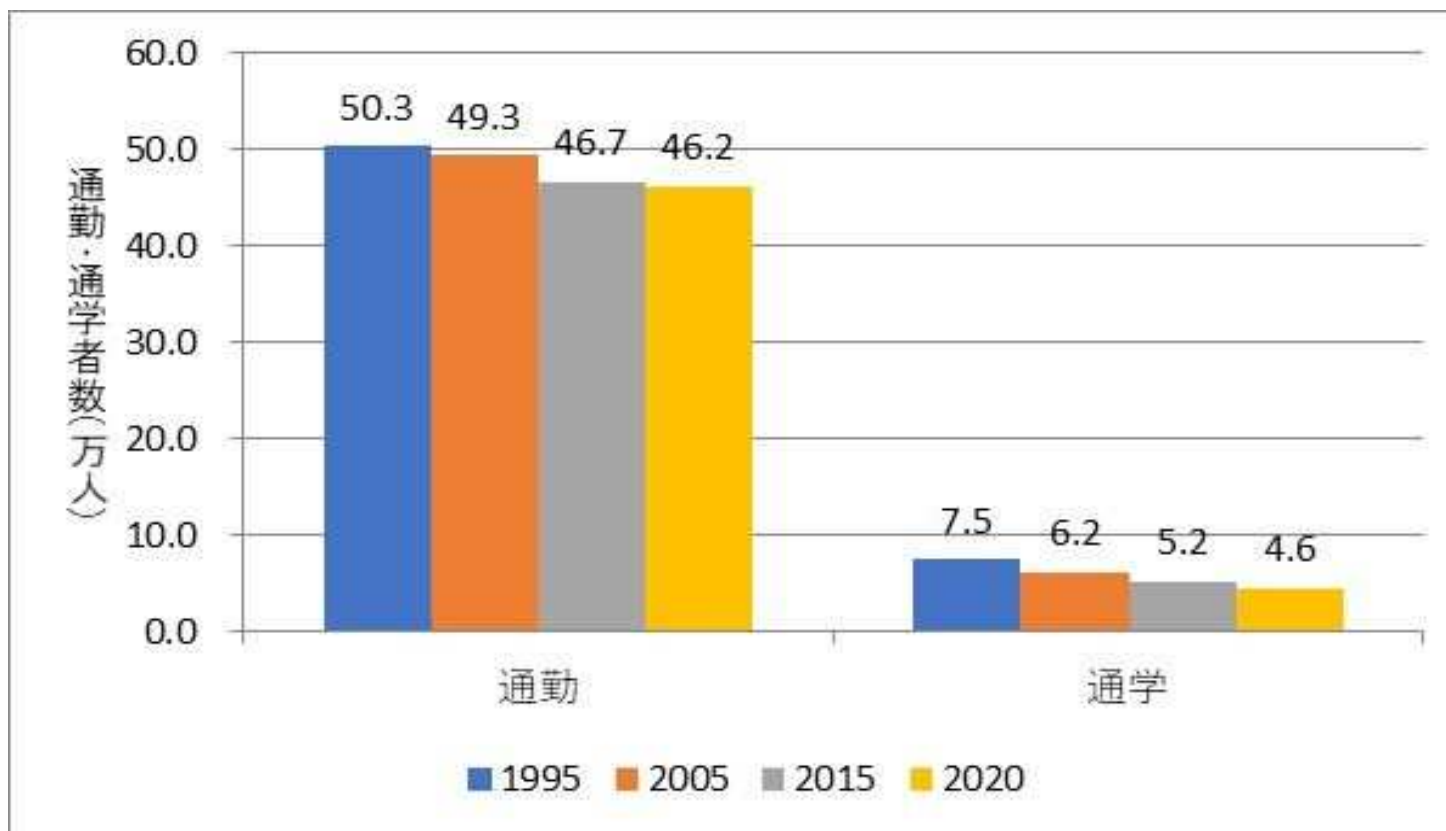
※ 地図上には、高速バス路線と主な始発・終着地を表示

出典：山形県作成資料

I 山形県の交通の現状 2 地域間・地域内の移動

(1) 交通流動の状況

- 県内の通勤者数、通学者数（15歳以上）は共に減少傾向にあり、1995年(平成7年)から2020年(令和2年)までの25年間で、それぞれ約1割、4割減少している。



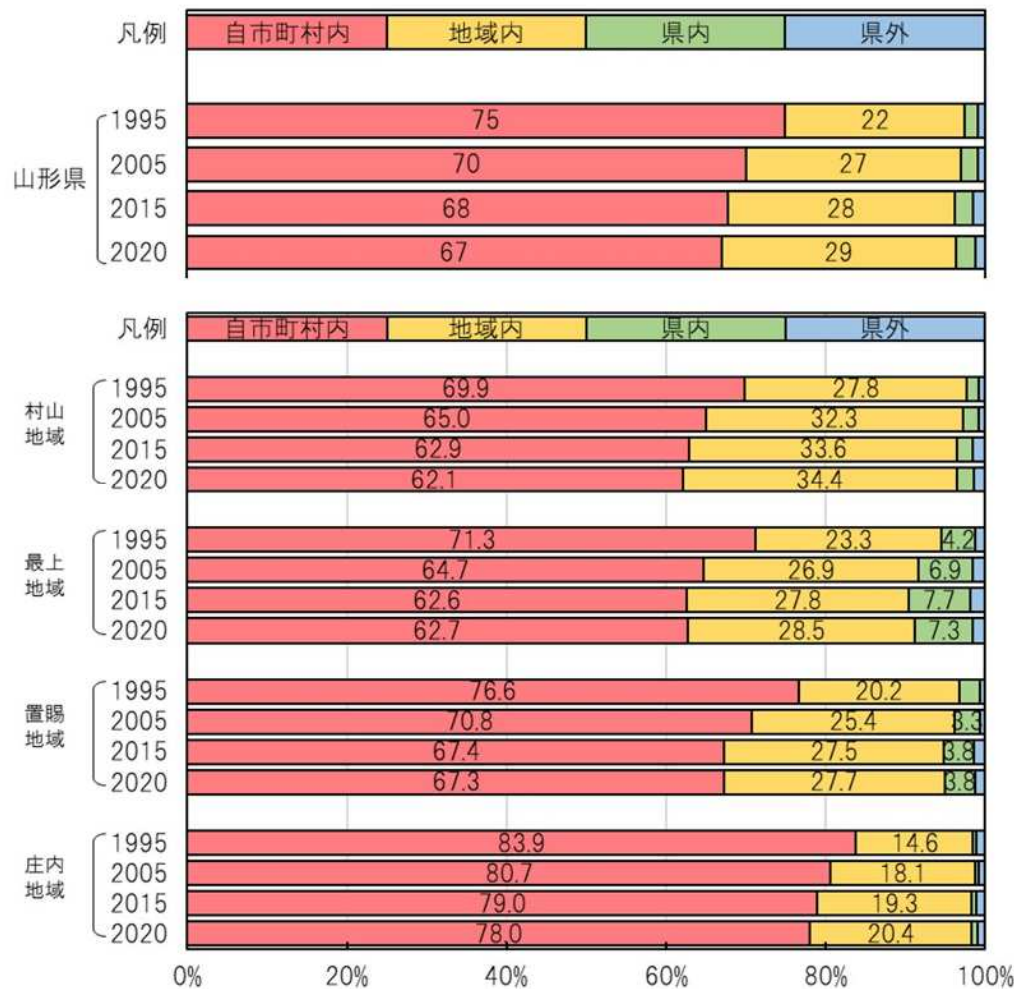
通勤・通学者数の推移

出典：国勢調査（総務省）

I 山形県の交通の現状 2 地域間・地域内の移動

(1) 交通流動の状況

- 通勤先は、自市町村内が約7割と多いが、経年で比較すると、自市町村内の割合が減少する一方で、自市町村以外の地域内※の割合が増加し、広域化の傾向にある。



※本県の「地域内」の「地域」とは、村山、最上、置賜、庄内の4地域を意味する。

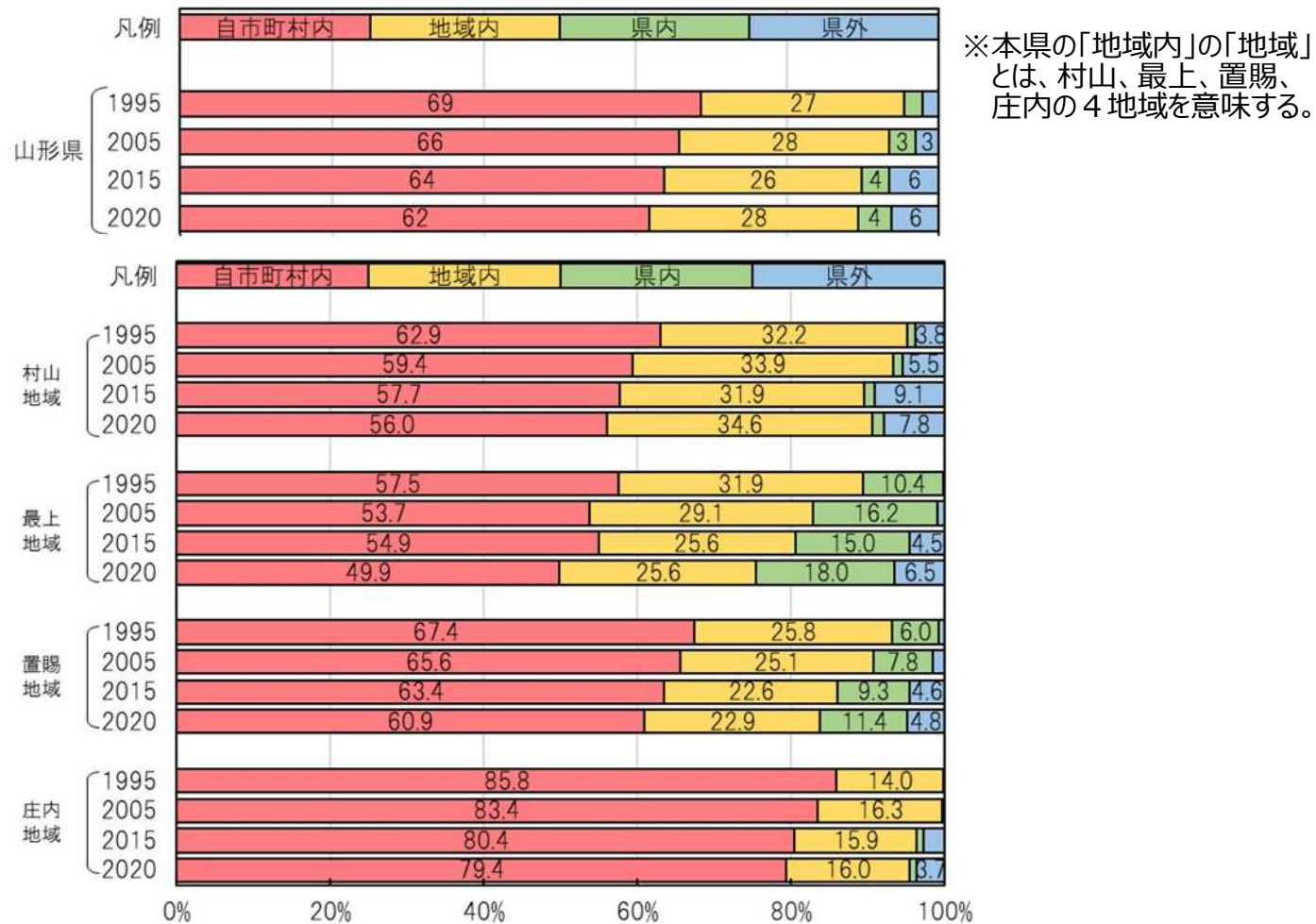
通勤先の推移

出典：国勢調査（総務省）

I 山形県の交通の現状 2 地域間・地域内の移動

(1) 交通流動の状況

- 通学先は、自市町村内在が約6割となっているが、経年で比較すると、自市町村内在の割合が減少する一方で、県外の割合が増加し、通勤よりも広域化の傾向にある。



通学先の推移

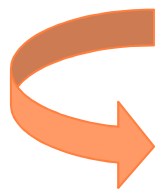
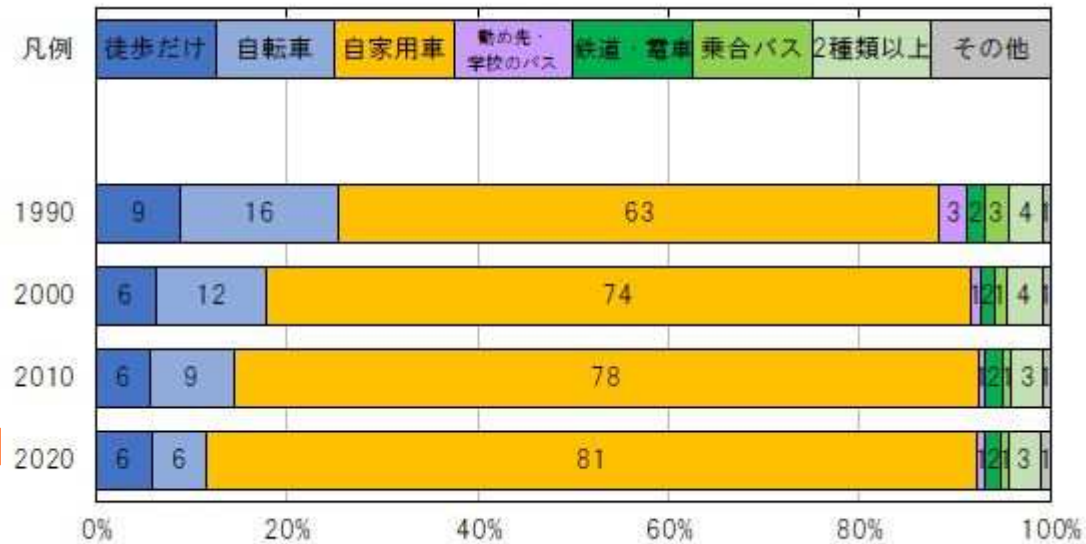
出典：国勢調査（総務省）

I 山形県の交通の現状 2 地域間・地域内の移動

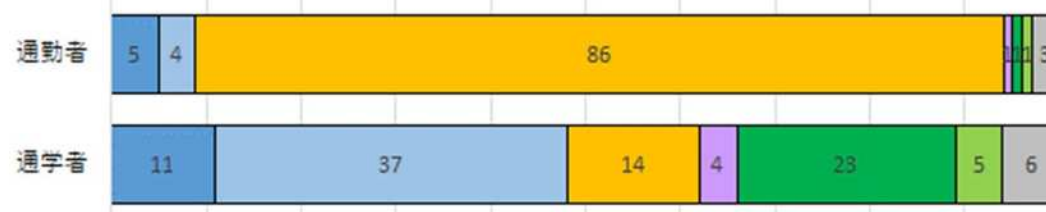
(1) 交通流動の状況

- 通勤・通学時の交通手段は、自家用車が約 8 割と多く、経年比較でも増加傾向にある。
- 通勤者・通学者別に見ると、通勤者は自家用車が約 9 割であるが、通学者は自転車約 4 割と最も多く、次いで、鉄道・電車が約 2 割となっている。

通勤・通学の交通手段



<通勤者・通学者別 (2020) >



出典：国勢調査（総務省）

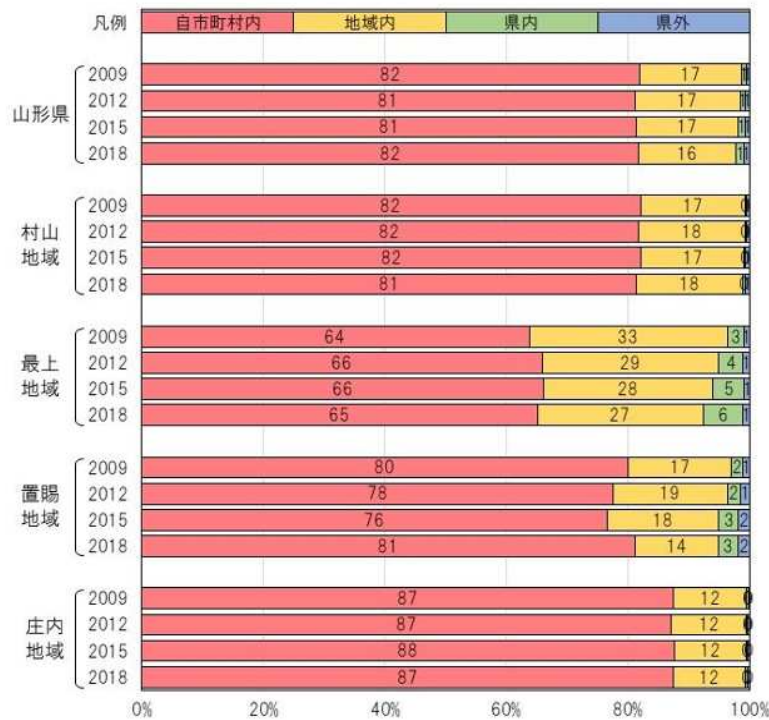
I 山形県の交通の現状 2 地域間・地域内の移動

(1) 交通流動の状況

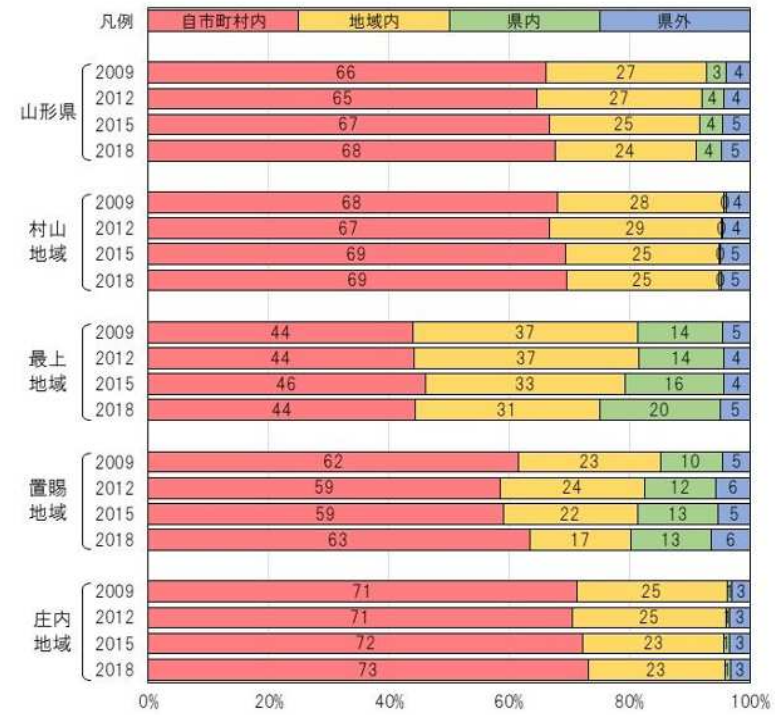
- 最寄品※の買い物先は自市町村内の割合が高い。買回品※の買い物先も自市町村内の割合が最も高いものの、最寄品と比較し、自市町村以外の地域内の割合が高くなる。最上・置賜の両地域に関しては、買回品について、村山等の他地域の割合が増加傾向にある。

※最寄品：日常的に頻繁に購入する商品。食料品・日用雑貨・消耗品など。

買回品：複数のものを比較検討して購入する商品。靴・バック、電化製品、時計・メガネ・アクセサリーなど。



最寄品買物先の構成割合



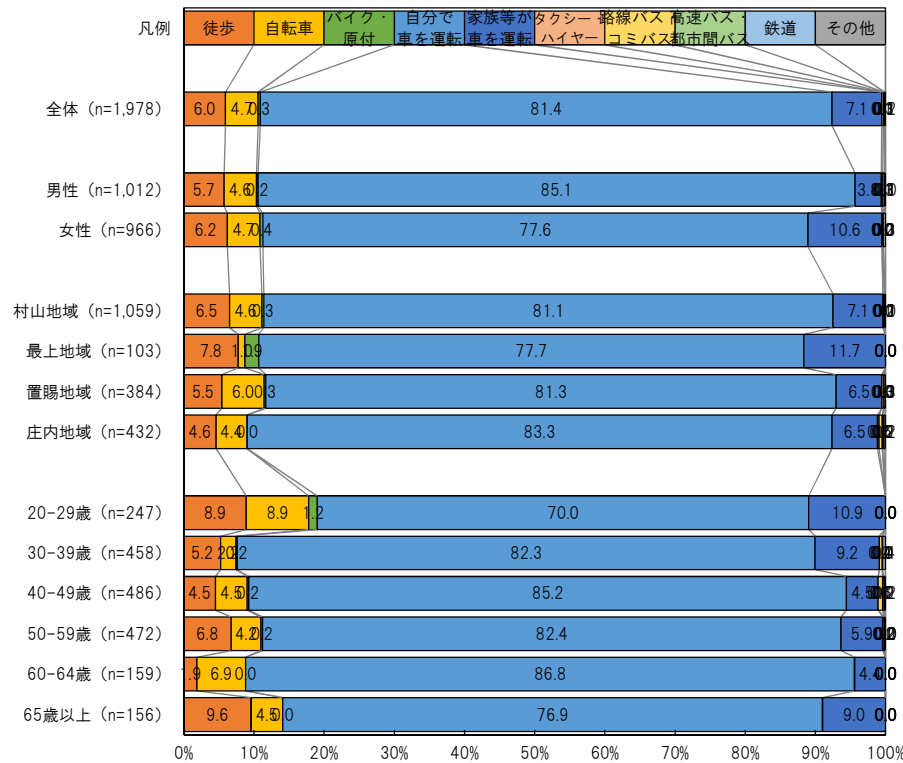
買回品買物先の構成割合

出典：山形県買物動向調査

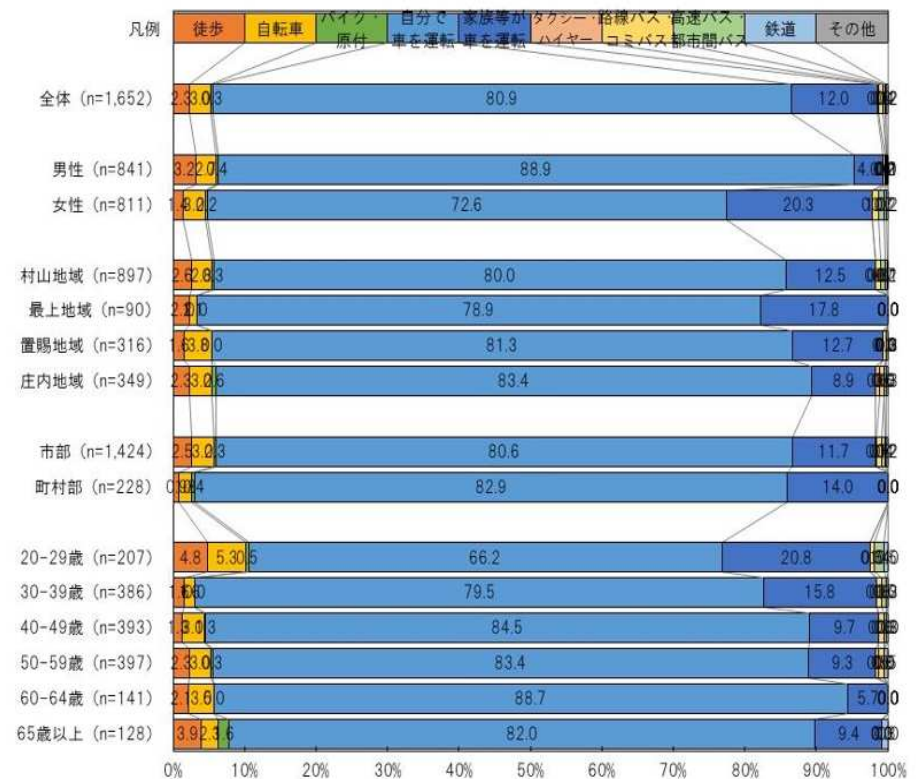
I 山形県の交通の現状 2 地域間・地域内の移動

(1) 交通流動の状況

○ 地域住民は、最寄品、買回品共に、買物時の移動手段として自動車への依存率が高い。



地域住民の「最寄品の買物」の移動手段



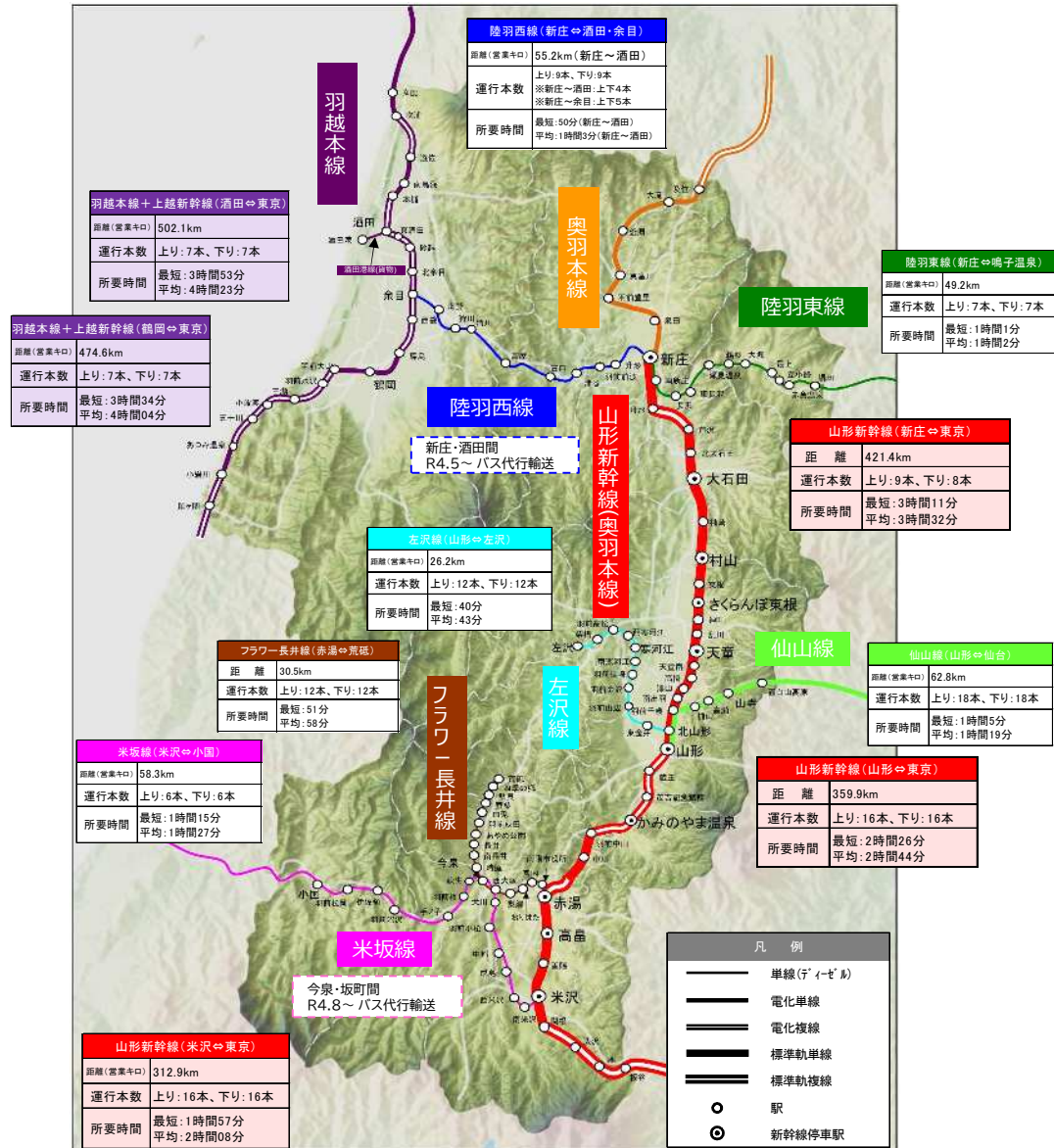
地域住民の「買回品の買物」の移動手段

出典：平成29年度山形県の総合的な交通体系のあり方に関する調査報告書（山形県）
県民アンケート、来訪者アンケート結果

I 山形県の交通の現状 2 地域間・地域内の移動

(2) 交通基盤の状況 ① 在来線鉄道

山形県内鉄道網図
(令和5年2月)



I 山形県の交通の現状 2 地域間・地域内の移動

(2) 交通基盤の状況 ① 在来線鉄道

- 県内各路線で年々利用者が減少しており、モータリゼーションの進展、少子化を伴う人口減少、コロナによる利用の減少など様々な要因が考えられる。

路線別利用状況（平均通過人員）

路線名	区間	平均通過人員(単位:人/日)															
		S62	H4	H9	H14	H19	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
奥羽本線 (山形新幹線 含む)	福島～米沢	9,860	9,592	9,638	9,547	9,526	7,997	8,986	9,366	9,258	9,418	9,404	9,447	9,517	8,985	2,701	3,731
	米沢～山形	11,346	10,708	11,526	11,188	10,999	9,915	10,527	10,941	10,674	10,811	10,829	10,881	10,886	10,358	4,740	5,647
	山形～新庄	9,024	7,611	7,014	6,578	5,915	5,485	5,607	5,794	5,410	5,497	5,367	5,524	5,483	5,366	3,603	3,978
	新庄～湯沢	4,047	3,034	1,953	898	726	555	569	568	529	544	462	438	424	416	212	229
羽越本線	新発田～村上	9,646	10,305	9,088	7,534	6,968	6,364	6,290	6,474	6,088	5,919	5,871	5,734	5,686	5,367	3,493	3,643
	村上～鶴岡	5,690	6,057	4,810	3,472	2,927	2,539	2,344	2,359	2,122	1,962	1,881	1,803	1,795	1,695	697	853
	鶴岡～酒田	6,109	6,369	5,225	4,181	3,493	3,046	2,776	2,800	2,516	2,328	2,272	2,195	2,197	2,109	1,245	1,344
	酒田～羽後本荘	4,393	4,582	3,670	2,703	2,084	1,872	1,686	1,705	1,446	1,232	1,131	1,033	987	977	645	680
仙山線	仙台～愛子	11,983	17,030	20,403	20,089	22,058	21,719	23,157	23,923	23,564	24,045	24,353	24,473	24,781	24,724	17,432	19,198
	愛子～羽前千歳	5,369	6,438	5,971	4,750	3,920	3,408	3,711	3,868	3,762	3,768	3,638	3,553	3,457	3,374	1,917	2,284
陸羽西線	新庄～余目	2,185	1,331	983	757	593	626	403	403	409	391	389	401	345	343	163	192
陸羽東線	鳴子温泉～最上	456	981	257	157	147	107	103	110	103	94	95	101	85	79	41	44
	最上～新庄	1,273	1,793	1,033	750	574	465	476	513	490	474	446	394	363	343	289	306
米坂線	米沢～今泉	1,966	1,873	1,631	1,336	988	883	908	925	860	916	906	856	822	776	641	621
	今泉～小国	833	630	463	435	393	331	321	285	261	275	282	270	274	298	248	226
左沢線	北山形～左沢	4,195	3,659	4,141	3,854	3,706	3,566	3,591	3,681	3,327	3,394	3,384	3,358	3,342	3,282	2,791	2,827
フラワー 長井線	赤湯～荒砥		1,254	1,085	856	696	668	641	581	555	540	533	531	526	481	339	385

【出典】JR東日本ホームページ「路線別ご利用状況」（フラワー長井線を除く）、山形鉄道株式会社
 平均通過人員 = 各路線の年度内の旅客輸送人キロ ÷ 当該路線の年度末営業キロ ÷ 年度内営業日数

I 山形県の交通の現状 2 地域間・地域内の移動

(2) 交通基盤の状況 ②バス・タクシー

- 県内乗合バスの輸送人員は減少傾向で推移しており、特に、2020年(令和2年)は新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に減少した。
- 路線バス数について、事業者運行はほぼ横ばいだが、市町村運行は減少傾向にあり、2007年(平成19年)から2022年(令和4年)の15年間で3割強減少している。一方で、市町村のデマンド交通は、年々増加しており、市町村運行の路線バスがデマンド交通にシフトしている状況にある。



出典：乗合バス輸送量：旅客地域流動調査（国土交通省）、その他は山形県作成資料

I 山形県の交通の現状 2 地域間・地域内の移動

(2) 交通基盤の状況 ②バス・タクシー

<デマンド交通の導入市町村>

導入市町村	29市町村（10市17町2村）			
運行開始年度	H17	2 町（飯豊町、高畠町）	H25	2 市町（村山市、山辺町）
	H18	2 町（川西町、西川町）	H27	1 市 1 町（米沢市、真室川町）
	H19	2 町村（鮭川村、舟形町）	H28	1 町（中山町）
	H20	4 市町（庄内町、白鷹町、 三川町、遊佐町）	R1	1 市（東根市）
	H21	2 市（山形市、鶴岡市）	R2	1 町（最上町）
	H22	3 市町村（小国町、戸沢村、 上山市）	R4	2 市町（新庄市、金山町）
	H23	3 市町（朝日町、酒田市、 天童市）		※新庄市は、R4.5.10から実証 運行中
	H24	2 市町（大江町、寒河江市）		

出典：山形県作成資料

I 山形県の交通の現状 2 地域間・地域内の移動

(2) 交通基盤の状況 ③道路の状況

＜山形県の地域高規格道路の整備推進状況＞



- 地域高規格道路は、県内の地域間や隣県とを結ぶ主要な路線であるが、縦軸の高速道路と比較して整備が遅れている
- 特に『石巻新庄道路』は、日本海側と太平洋側の連携強化に必要不可欠な路線であるが事業化されていないため、早期の事業着手が求められる

山形県内の地域高規格道路整備の進捗状況（供用率）

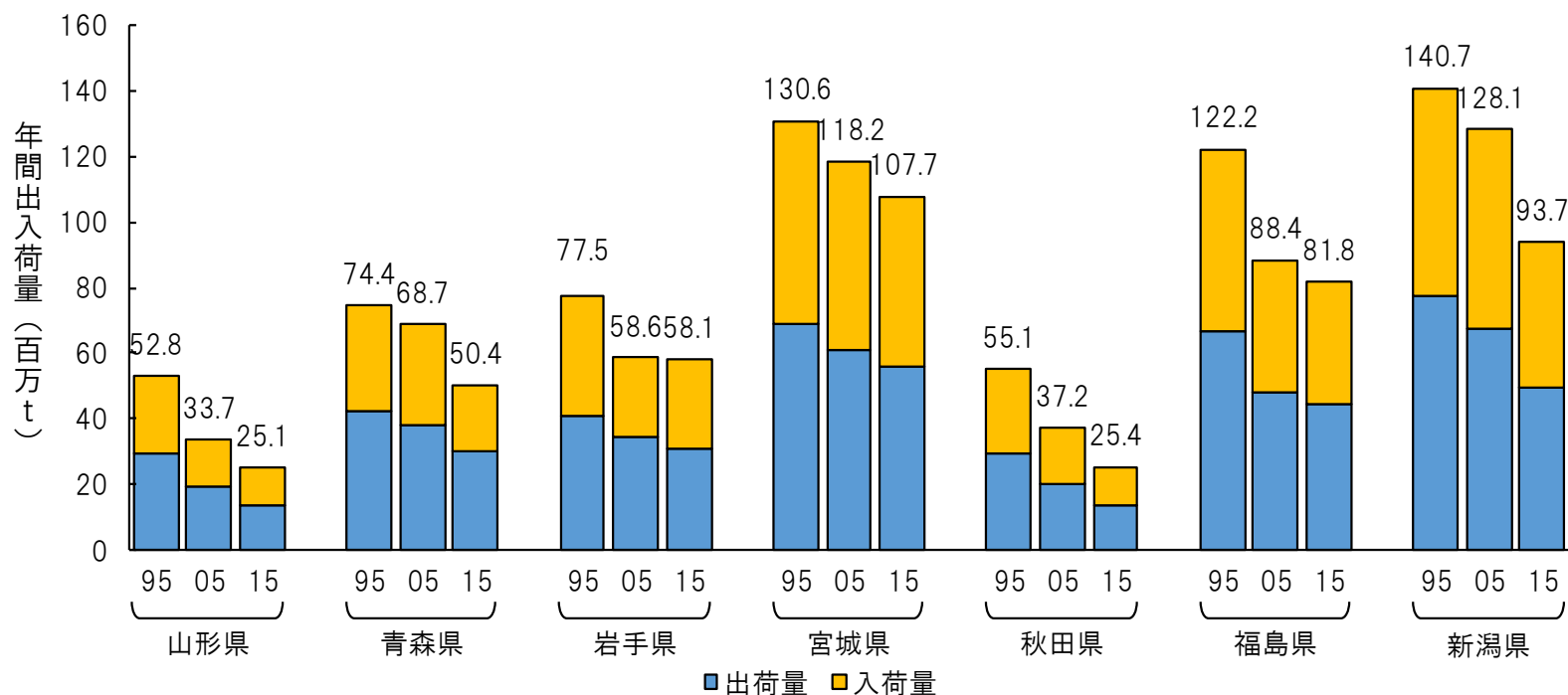
路線名※	2013年5月末	2023年3月末
新庄酒田道路	8%	43%
新潟山形南部連絡道路	14%	14%
全体	11%	29%

※候補路線である石巻新庄道路を除く

I 山形県の交通の現状 3 物の移動

(1) 交通流動の状況【国内貨物】

- 2015年の山形県における国内貨物の年間貨物量（出荷・入荷計）は25.1百万トンであり、東北6県の中で最も少なく、経年的にも減少傾向（平成7年から半減）にある。



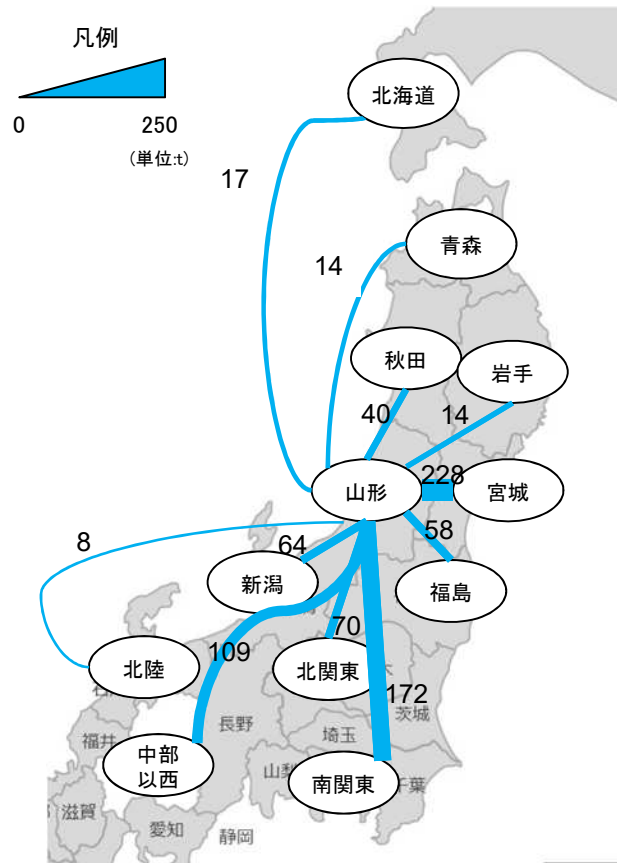
県別年間貨物量の推移

出典：全国貨物純流動調査（国交省）

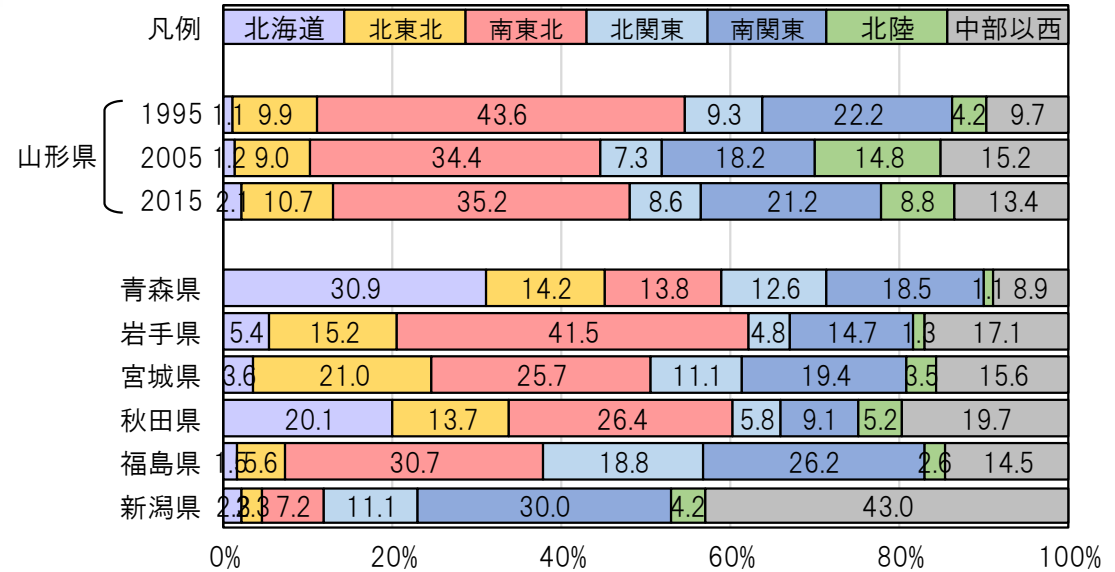
I 山形県の交通の現状 3 物の移動

(1) 交通流動の状況【国内貨物】

- 山形県を発着する貨物は、宮城県との流動量が最も多く、全流動の3割弱を占めている。次いで、新潟県、福島県が多い。
- 周辺他県と比較すると、宮城県に接する岩手県、福島県と同様の傾向であるが、山形県は岩手県、福島県と比較して、新潟県との流動量が多い。



県間流動（山形県発着）



(山形県以外は2015年時点)

県間貨物流動量（山形県発着）

出典：全国貨物純流動調査（国交省）

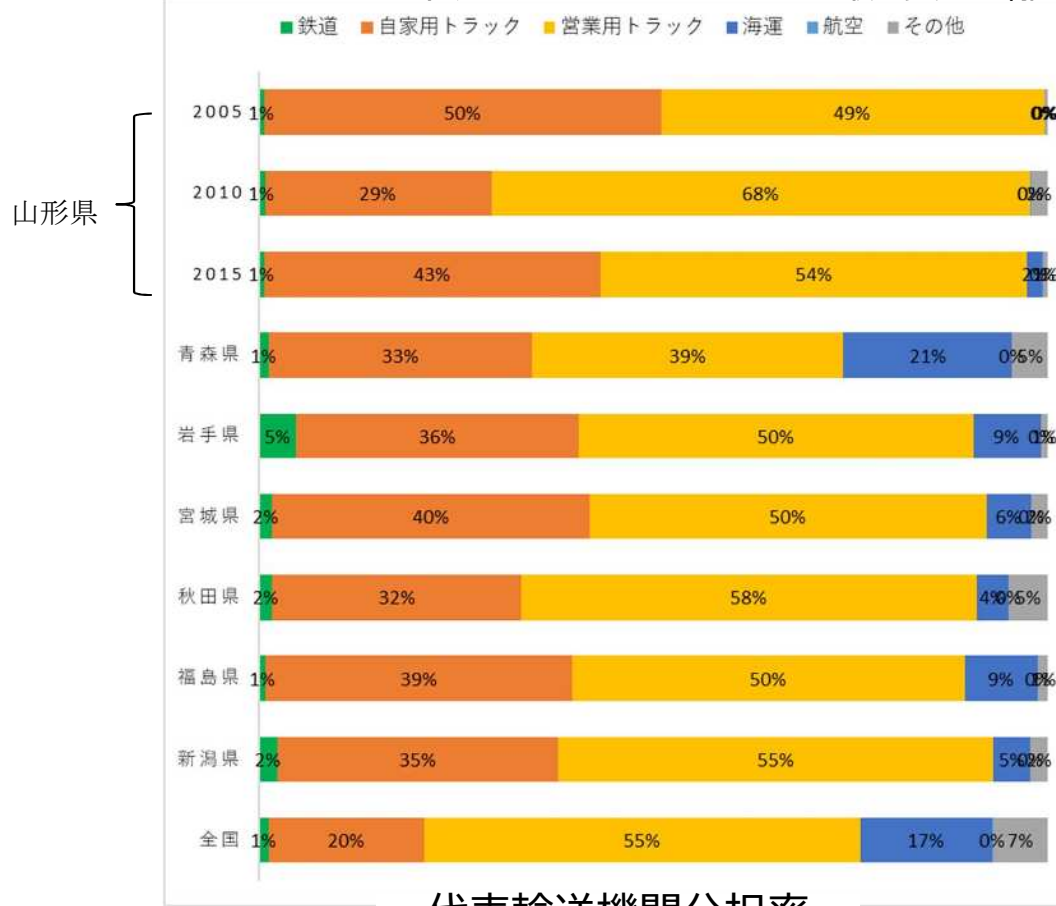
I 山形県の交通の現状 3 物の移動

(1) 交通流動の状況【国内貨物】

- 県間流動の代表輸送機関分担率(※)は、トラックの割合が最も多く9割以上を占めている。

全国や東北の各県と比較すると、トラックの割合が高く、海運の割合が低い傾向にある。

※貨物が出荷されて目的地に到着するまでに利用された輸送機関のうち、最も長い距離を輸送した輸送機関



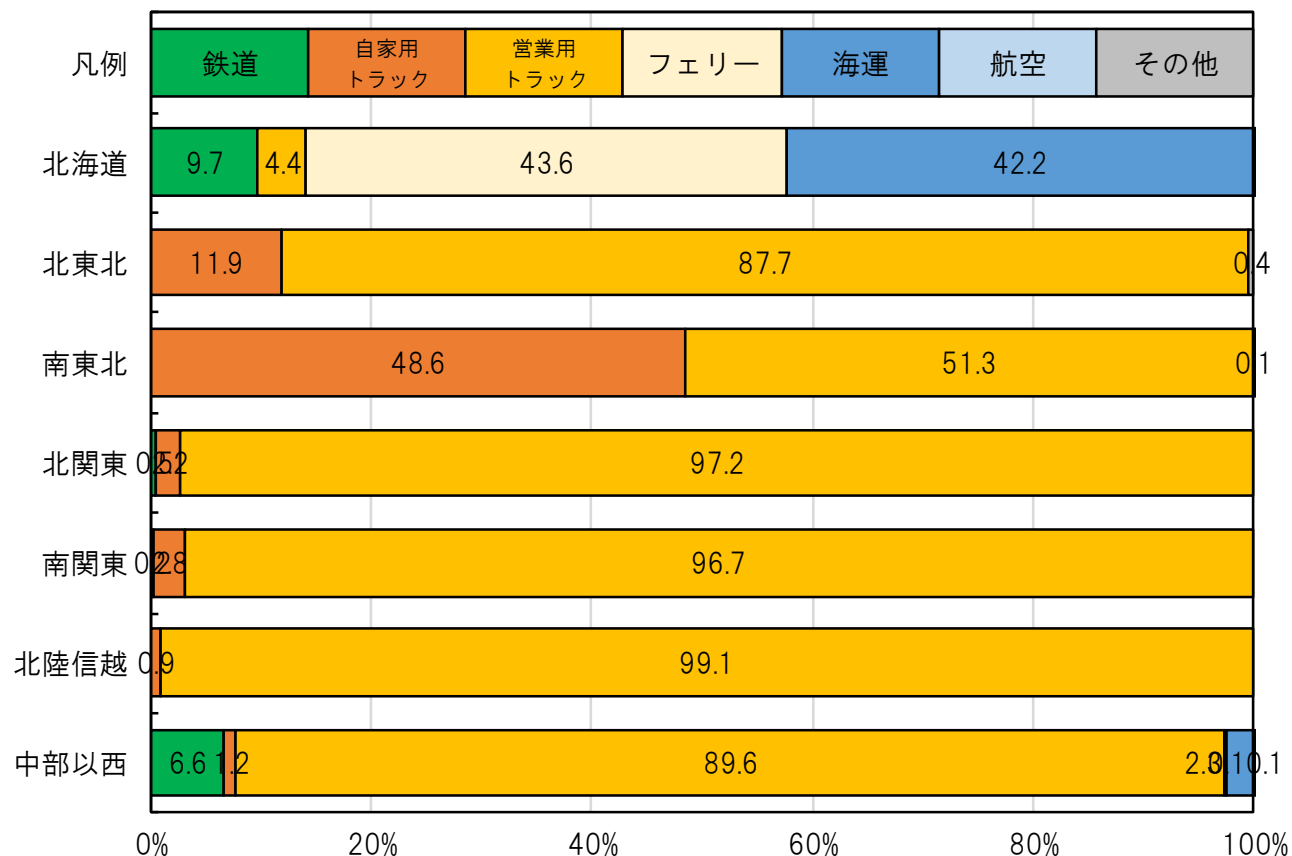
代表輸送機関分担率

出典：全国貨物純流動調査（国交省）

I 山形県の交通の現状 3 物の移動

(1) 交通流動の状況【国内貨物】

- OD（起点・終点）別に代表輸送機関分担率を見ると、東北や関東はほぼトラックで、中部以西では鉄道や海運の割合が高くなる。



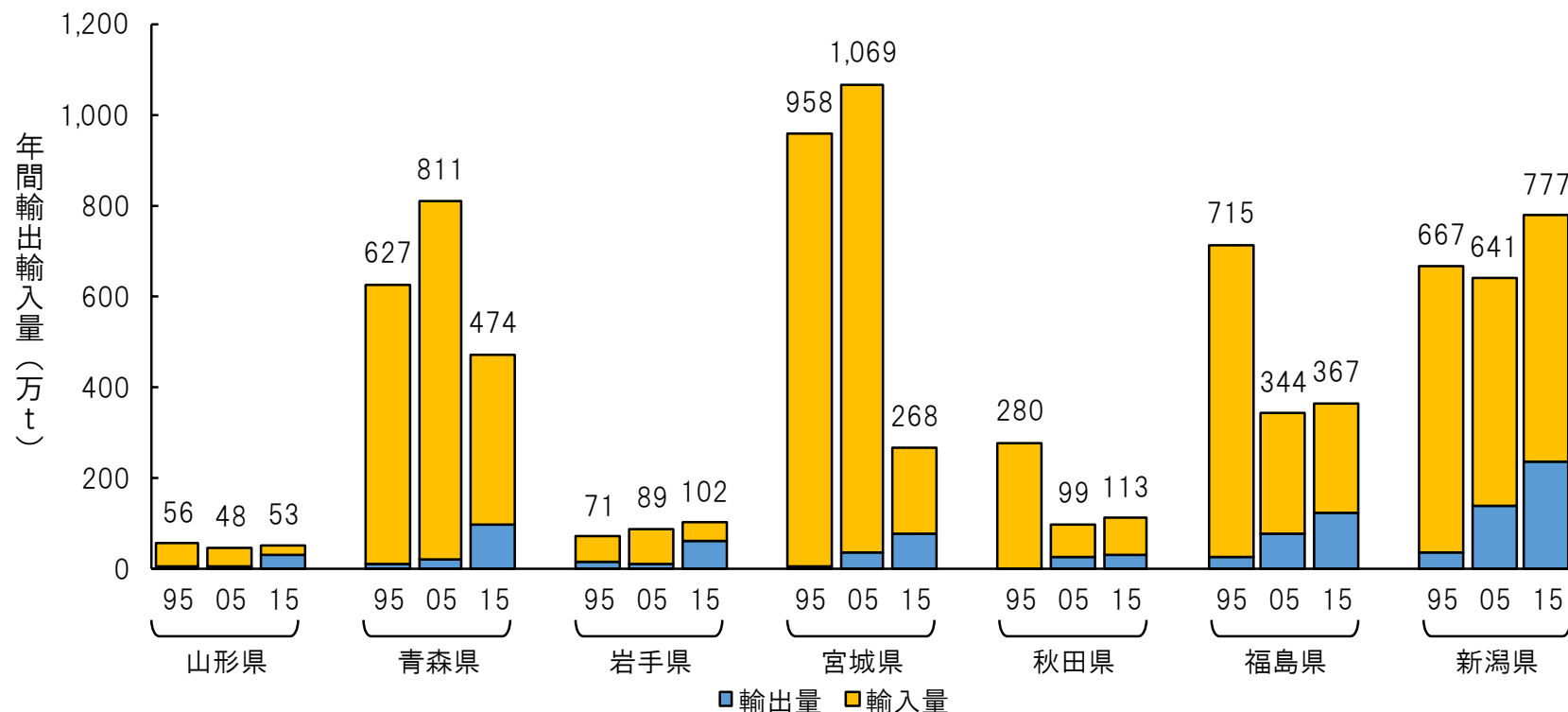
OD別代表輸送機関分担率（山形県）

出典：2015全国貨物純流動調査（3日間調査）

I 山形県の交通の現状 3 物の移動

(1) 交通流動の状況【国際貨物】

- 2015年の山形県における国際貨物の年間貨物量（輸出・輸入計）は53万トンであり、東北6県の中で最も少ない。



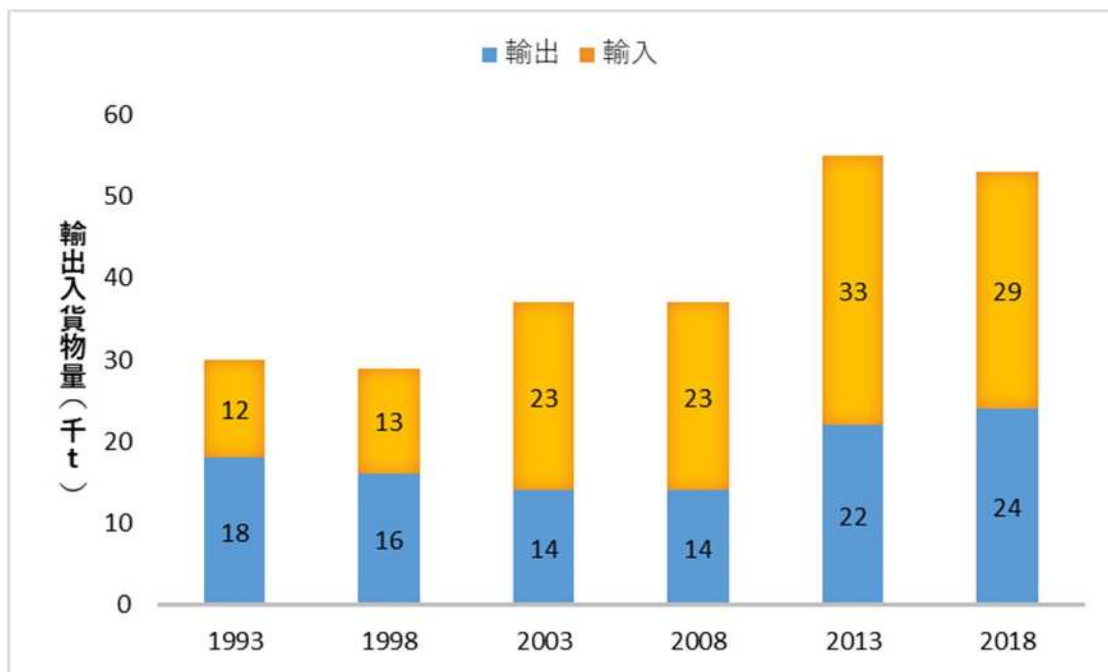
県別年間輸出・輸入量の推移

出典：全国貨物純流動調査（国交省）

I 山形県の交通の現状 3 物の移動

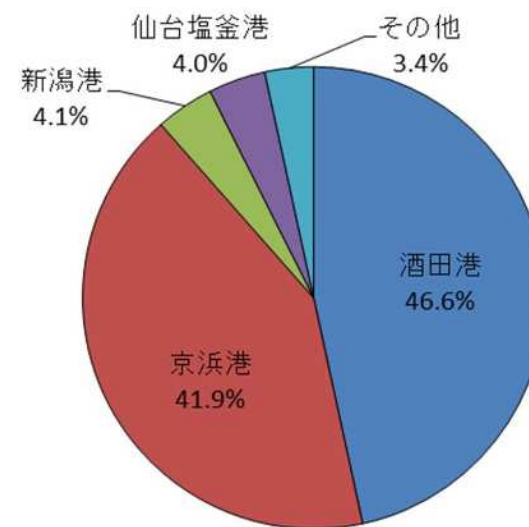
(1) 交通流動の状況【国際貨物】

- 2018年11月の調査では、山形県内を発着するコンテナ貨物の輸出が24千トン、輸入が29千トンであり、過去と比較すると増加傾向にある。
- 山形県内で生産・消費される輸出入コンテナの積卸港の割合は、酒田港46.6%、次いで、京浜港が41.9%、新潟港4.1%、仙台塩釜港4.0%と、酒田港の利用率が最も高くなっている。



輸出入コンテナ貨物量の推移

出典：全国輸出入コンテナ貨物流動調査（国交省）
※調査期間は各回とも11月の1ヶ月間



輸出入コンテナの利用港湾

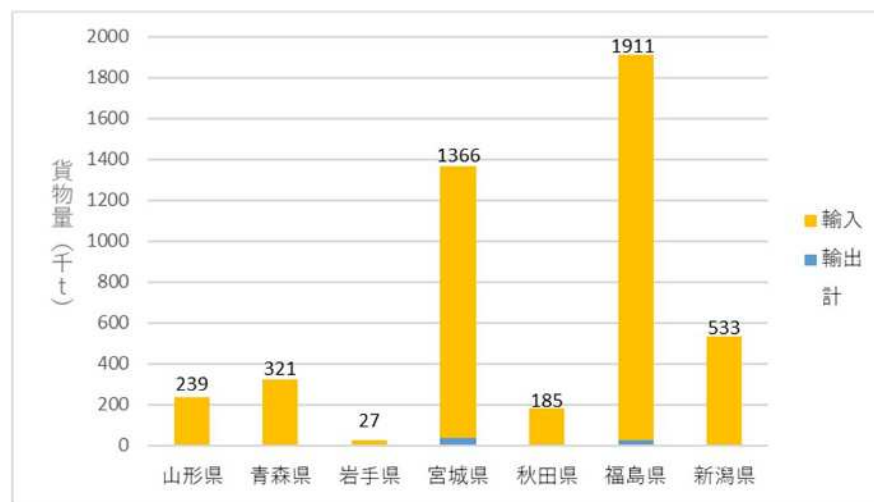
出典：H30全国輸出入コンテナ貨物流動調査（国交省）
※調査期間は平成30年11月の1ヶ月間

I 山形県の交通の現状 3 物の移動

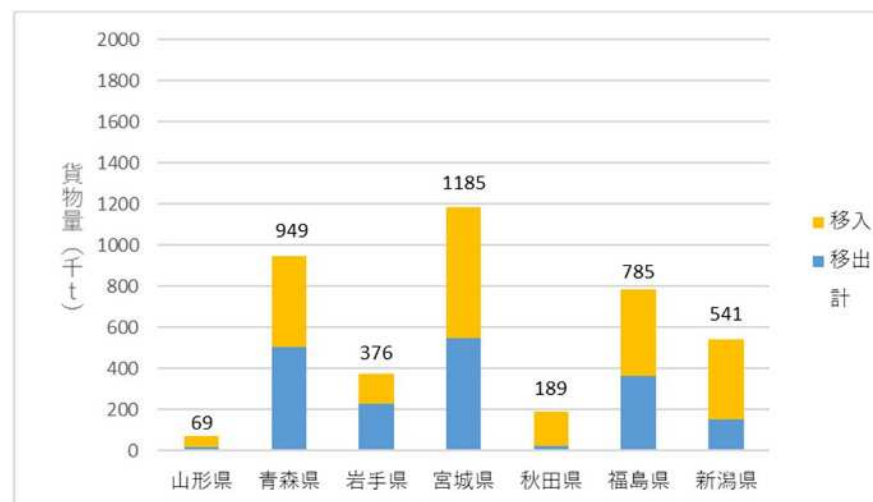
(1) 交通流動の状況【国際貨物】

- 山形県の2019年11月におけるバルク貨物※の取り扱い量は、輸出入計は239千t、移出入計は69千tである。
- 周辺県と比較すると、輸出入量は岩手県、秋田県に次いで少なく、移出入量は最も少ない。

※バルク貨物：バラ積みのドライバルク、原油等の液体バルク、完成自動車等



県別輸出入貨物量



県別移出入貨物量

出典：2019バルク貨物流動調査（国交省）

I 山形県の交通の現状 3 物の移動
 (2) 交通基盤の状況 ①港湾(海上輸送)の状況



ふ頭名	取扱品目の例
西ふ頭	化学工業品、特殊品、鋳産品
古湊ふ頭	化学工業品、特殊品、金属機械工業品、バイオマス発電燃料
宮海ふ頭	特殊品(金属くず等)、鋳産品、化学工業品

I 山形県の交通の現状 3 物の移動

(2) 交通基盤の状況 ① 港湾（海上輸送）の状況



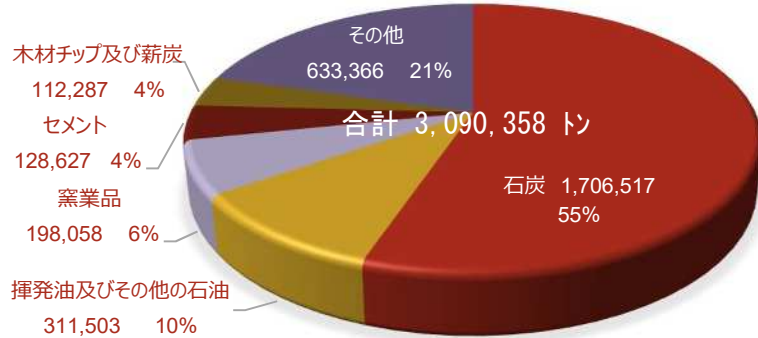
I 山形県の交通の現状 3 物の移動

(2) 交通基盤の状況 ①港湾（海上輸送）の状況

< 酒田港 >

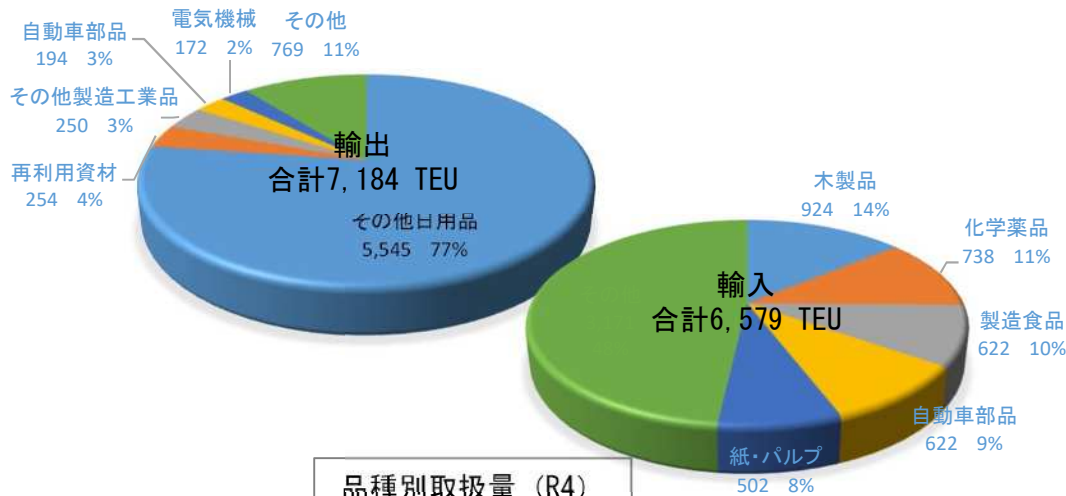
(1) 取扱全貨物量

- ・ 例年300～400万トで推移
- ・ 主要な品種は石炭、石油製品、窯業品（石炭灰）、セメント、木材チップ



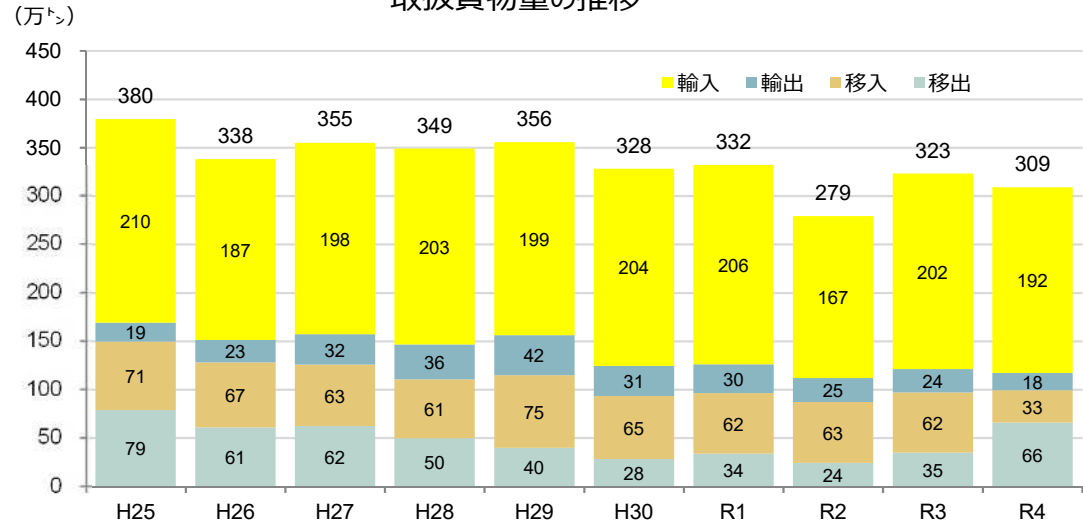
品種別取扱量 (R4)

(2) コンテナ貨物

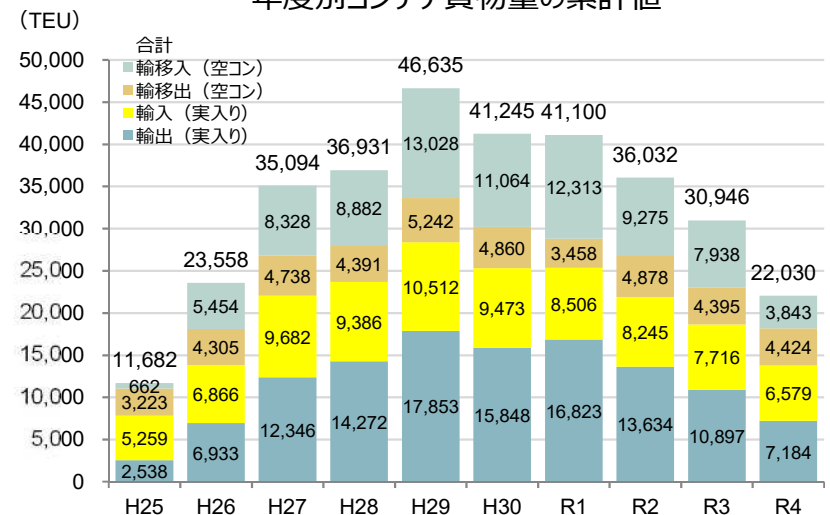


品種別取扱量 (R4)

取扱貨物量の推移



年度別コンテナ貨物量の累計値



I 山形県の交通の現状 3 物の移動

(2) 交通基盤の状況 ① 港湾 (海上輸送) の状況

酒田港に就航する国際定期コンテナ航路



国際定期コンテナ航路 週3便 (2022年6月1日現在)

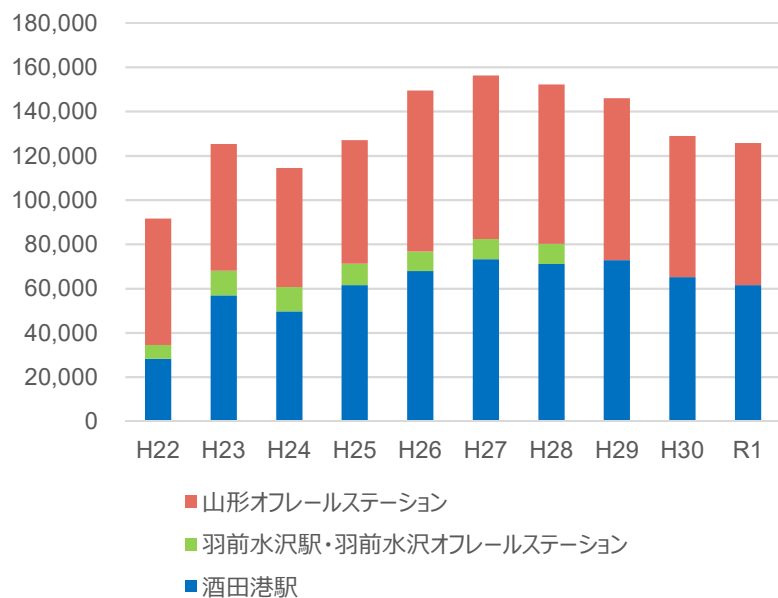
運航船社	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
韓国航路 【週1便】	長錦商船	秋田	酒田	釜山	釜山新港	⇒	⇒	仙台	八戸	苫小牧	⇒	舞鶴	境港	釜山	釜山新港	⇒	清水	常陸那珂	仙台	八戸	⇒	
	■運航船舶 QINGDAO TRADER (チンダオトレーダー)、HEUNG-A JANICE (ヒュンガジャニス)、NAGOYA TRADER (ナゴヤトレーダー) ※3週間の航路を3隻でローテーション																					
中国・韓国航路 【週2便】	高麗海運	⇒	酒田	秋田	苫小牧	釧路	室蘭	⇒	⇒	博多	釜山	釜山	光陽	青島	青島	大連	⇒	釜山	博多	⇒	常陸那珂	仙台
	南星海運	⇒	酒田	秋田	苫小牧	釧路	室蘭	⇒	⇒	博多	釜山	釜山	光陽	青島	青島	大連	⇒	釜山	博多	⇒	常陸那珂	仙台
■運航船舶 SUNNY IRIS (サニーアイリス)、SUNNY CANNA (サニーカナ)、SUNNY ACACIA (サニーアカシア)、DONGJIN ENTERPRISE (トウジンエンタープライズ)、SHEGAN (シーキャン) ※5週間の航路を5隻でローテーション																						
上海・寧波航路	高麗海運	釧路	⇒	石狩	⇒	酒田	新潟	⇒	釜山	釜山	光陽	⇒	上海	寧波	⇒	釜山	⇒	常陸那珂	仙台	苫小牧		
	南星海運	釧路	⇒	石狩	⇒	酒田	新潟	⇒	釜山	釜山	光陽	⇒	上海	寧波	⇒	釜山	⇒	常陸那珂	仙台	苫小牧		
■運航船舶 SUNNY DAISY (サニーデイジー)、STAR EXPRESS (スターエクスプレス)、STAR SKIPPER (スタースキッパー) ※3週間の航路を3隻でローテーション																						

I 山形県の交通の現状 3 物の移動

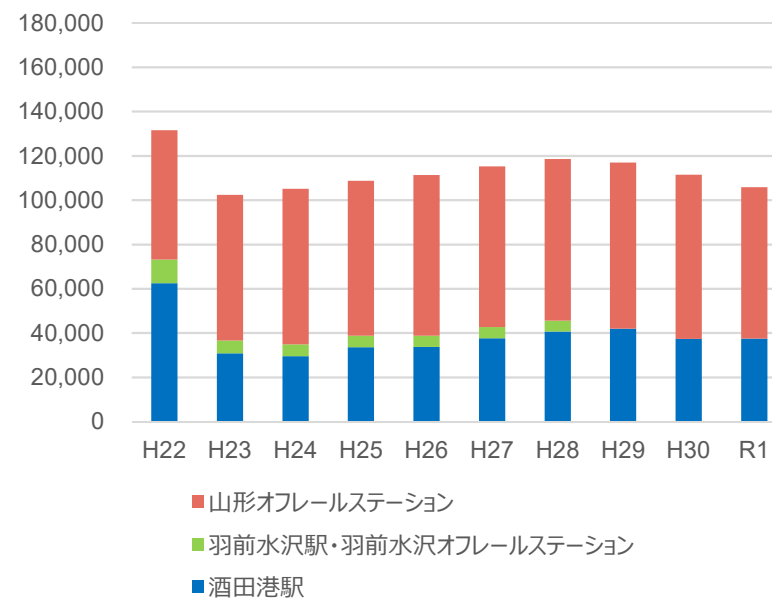
(2) 交通基盤の状況 ②鉄道（陸上輸送）の状況

- JR貨物のコンテナ輸送について、貨物列車での輸送は羽越本線のみ行われている。
- そのほか、山形オフレールステーションにおいて、仙台貨物ターミナルとの間で鉄道コンテナのトラックでの輸送が行われている。

貨物取扱駅（施設）別輸送量の推移



山形県からの発送



山形県への到着

データはJR貨物山形営業所・酒田港駅からの聞き取りによる。
 羽前水沢駅のうち、貨物については、平成26年5月7日から羽前水沢オフレールステーションとなり、平成29年3月31日に廃止。（貨物のみ）

I 山形県の交通の現状 3 物の移動

(2) 交通基盤の状況 ②鉄道（陸上輸送）の状況

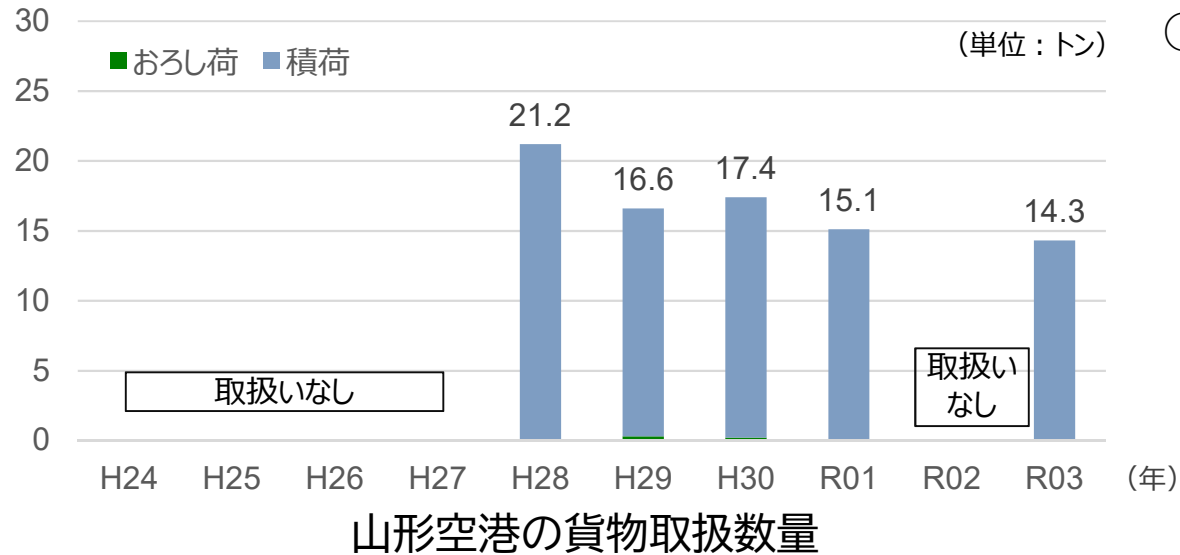
- コロナ禍の利用者減少を契機として、山形新幹線等の利用回復及び新規需要の創出のため、J R 東日本と連携した取組として、鉄道による荷物輸送を実施。



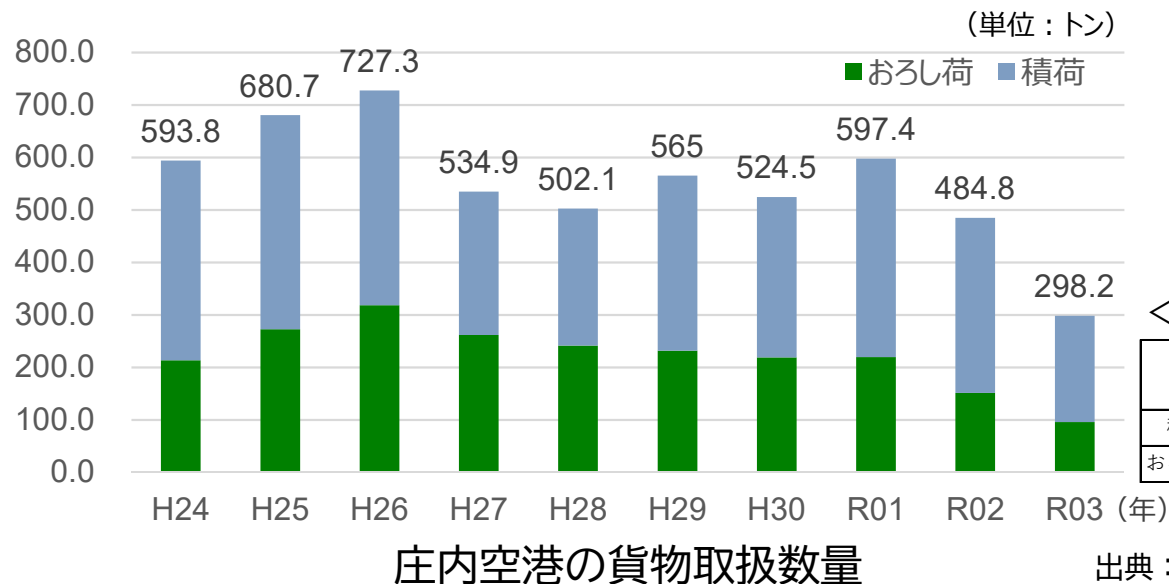
山形新幹線や特急いなほを活用した荷物輸送の実施により、旬の果物、水産物等県産品の魅力をPRするとともに、定時性・速達性など鉄道の利便性をPR

I 山形県の交通の現状 3 物の移動

(2) 交通基盤の状況 ③空港（航空輸送）の状況



- 平成28年度から、羽田便・伊丹便において、さくらんぼの時期限定で貨物輸送が再開（令和2年度は新型コロナウイルスの影響により休止）



- 積荷では、「部品」が約8割を占める。
- おろし荷では、「部品」が約3割、「花」が1割を占める。

<品目別取扱数量（令和3年度）>

	花	果実 野菜	部品	動物	衣類 雑貨	書籍 新聞	その他	合計
積荷	0.0	1.4	166.5	1.7	0.1	0.0	32.5	202.4
おろし荷	10.8	0.0	27.5	3.3	0.0	0.1	54.2	95.8

出典：山形県山形空港事務所・庄内空港事務所作成資料